

調査報告

フリースクール等の 運営実態調査



2025年10月



CONTENTS

01	調査概要	3
02	現状の全体像	4
03	アンケート結果（詳細）	10
	①施設概要	10
	②活動内容	15
	③開所日数・時間	20
	④利用者の状況	21
	⑤卒業後の進路などの状況	26
	⑥スタッフの状況	26
	⑦利用料	28
	⑧学校等との連携状況	29
	⑨不登校児童生徒が利用するに あたっての課題等	32

01 調査概要

1 – 調査の主旨

本調査は、富山県内で活動するフリースクール等の経営状況や、利用する児童生徒や保護者への支援内容、学校との連携状況等を把握し、今後の支援のあり方を検討するために行うものである。

2 – 富山県の現状

- (1) 富山県の不登校児童生徒数
 - (R5) 小学生1,110人、中学生1,531人（近年は増加傾向）
- (2) フリースクール等通所児童生徒支援事業（富山県教育委員会）
 - (R6) 児童生徒184人の保護者へ助成

3 – 調査方法

■ アンケート調査

期間：2025年6月4日～7月7日

対象：富山県内のフリースクール等 29施設・団体

方法：インターネット or 用紙(郵送)によるアンケート

■ ヒアリング調査

期間：2025年6月4日～7月9日

対象：富山県内のフリースクール等 20施設・団体

方法：現地訪問、インタビュー

4 – 調査主体

富山県厚生部こども家庭室こども未来課（実施委託先：株式会社北陸博報堂）

※留意点：①回答内容は各団体の自己申告に基づく。
②全国の数値は、フリースクール白書2022に基づく。

02 現状の全体像

本調査を通じて、運営上の課題や、こどもたちの学びや生活の様子など、現場のリアルな姿が明らかになってきました。

ここでは、調査結果をもとに見えてきた現状の全体像をご紹介します。

全体概要

1. フリースクール等こどもの居場所づくりの重要性

- ・近年、様々な理由により、**不登校の児童生徒は増加**傾向にある
- ・フリースクール等の学校外の施設は、学校に馴染めず**生きづらさ**を抱えたこどもの**サードプレイス**として、重要性が増している

2. フリースクール等こどもの居場所の機能

- ・居場所は、こどもにとって将来社会に出るための知識や、**人と繋がり自立するためのサポート**をすることが必要
- ・フリースクール等を利用する場合、学校等が適切に把握し、事業者とコミュニケーションをとり、**こどもと一緒に育む視点**が必要

3. 現状と課題

- ・フリースクール等は、実施主体・利用者数・開設形態は目的によって様々で、**事業者によってばらつき**があり多様である
- ・調査を通じて明らかになった課題として、後述のとおり、**①財政的な不安定さ、②社会的認知の不足、③学校との不十分な連携、④地域格差とアクセスの問題、⑤新たに開設されたフリースクールが多く、現在は試行錯誤の段階**等が挙げられる

4. 今後の方向性と必要な視点

- ・背景は多様であるため、画一的ではなく、**施設の特性や状況に応じた柔軟な支援**が求められる
- ・フリースクール事業者の全体の底上げおよび質を高めるため、**ネットワークの構築と関係機関との情報交換が不可欠**
- ・同時に、必要な方へ適切な支援を届けるため、**多種多様なフリースクール等について情報発信が必要**

個別項目

①富山県のフリースクール等利用人数（のべ人数）

	小学生	中学生	合計
利用者数	172人	106人	278人

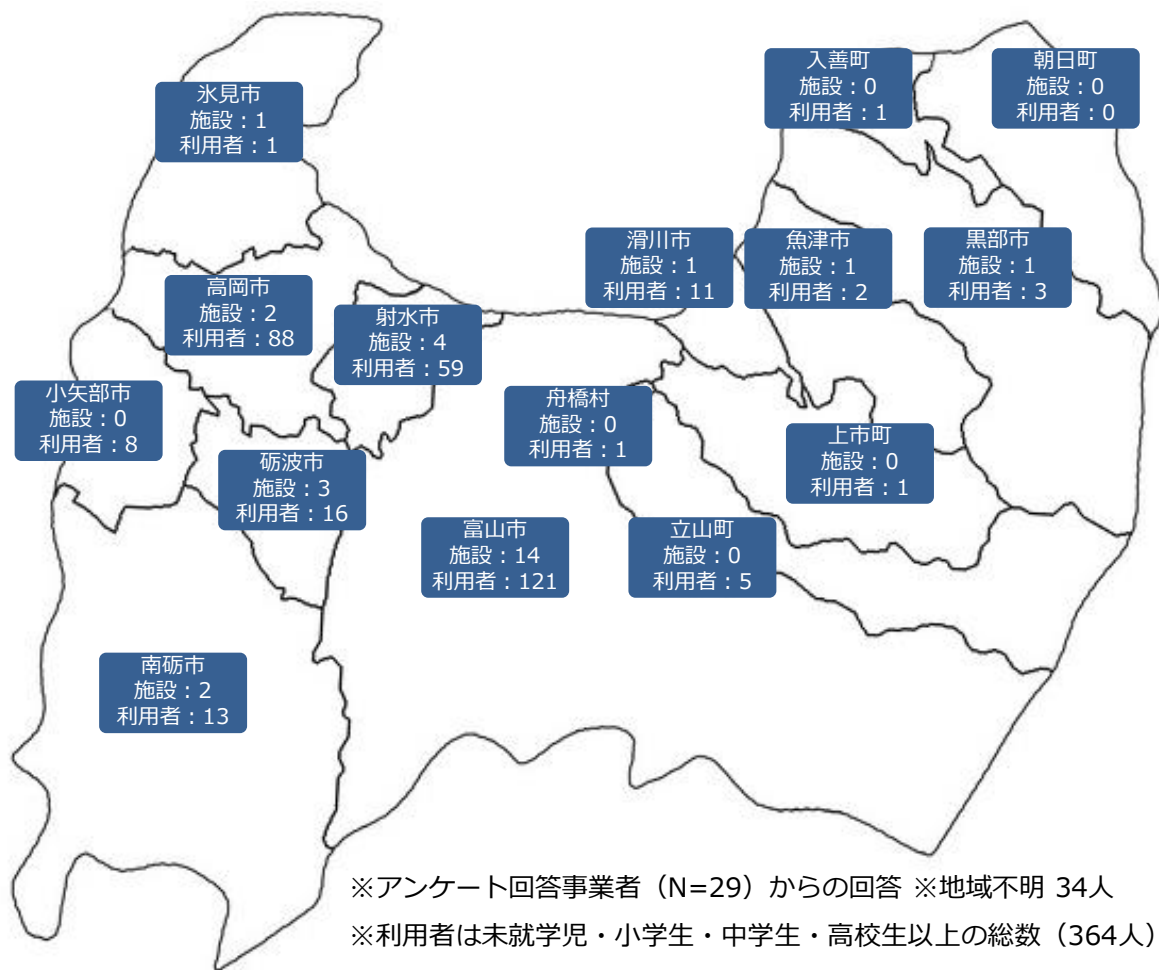
※【参考1】富山県の不登校児童生徒数：（R5）小学生1,110人、中学生1,531人（近年は増加傾向）

※【参考2】県内教育支援センターの利用者数：（R6）256人

※数値は、アンケート回答事業者からの申告。令和7年6月現在の利用者数（のべ人数）

※未就学児、高校生以上を含めると、合計364人

② フリースクール等利用者の地域別分布マップ



利用者の居住地	富山市	高岡市	射水市	魚津市	氷見市	滑川市	黒部市	砺波市	小矢部市	南砺市	舟橋村	上市町	立山町	入善町	朝日町	県外	不明	合計
利用者数	121	88	59	2	1	11	3	16	8	13	1	1	5	1	0	0	34	364

③ フリースクール等運営事業者の事業形態

	NPO法人	公益法人 一般法人	個人	株式会社 有限会社	親の会 (任意団体)	その他法人
富山県	9箇所 31%	7箇所 24%	4箇所 14%	3箇所 10%	2箇所 7%	4箇所 14%
全国 ※割合のみ	NPO法人 42.6%	公益法人 一般法人 不明	個人 19.1%	株式会社 有限会社 16.4%	親の会 (任意団体) 3.8%	その他 18%

※形態は様々であるが、富山県でも全国でも最も多い形態は、NPO法人である。

④ フリースクール等の設立目的

	居場所づくり	学校以外の 学びの場	自立支援	保護者支援	地域振興	その他
富山県	13箇所 45%	8箇所 28%	5箇所 17%	0箇所 0%	0箇所 0%	3箇所 10%
全国 ※割合 のみ	居場所づくり	塾が発展して	自分のこどもの通う 場をつくるため	海外モデルに 触発されて	親の会の集まり こどもの集まりが発展	その他
	39.7%	14.1%	9.8%	8.2%	12.5%	15.7%

※「居場所づくり」が最も多く、富山県では45%を占める

※もともと、学習塾、放課後デイサービス、放課後児童クラブ、通信制高校等、教育事業や福祉事業を行っている団体が多い。

⑤ 1施設あたりの利用者数

	0人	1～5人	6～10人	11人～15人	16人～20人	21人以上
施設数	2箇所 7%	13箇所 45%	2箇所 7%	4箇所 14%	2箇所 7%	6箇所 20%

※利用する児童生徒数は「1～5人」が最も多く、45%を占める

⑥ フリースクール等の財政規模

	50万未満	50 ～100万未満	100 ～250万未満	250 ～500万未満	500 ～1,000万未満	1,000万以上
富山県	12箇所 41%	1箇所 4%	2箇所 7%	8箇所 28%	4箇所 14%	1箇所 3%
富山県 ※他事 業含む	250万未満	250 ～500万未満	500 ～1,000万未満	1,000 ～2,000万未満	2,000万以上	
	8箇所 27%	3箇所 10%	4箇所 14%	4箇所 14%	10箇所 35%	
全国 ※割合 のみ	250万未満	500万以下	1,000万以下	2,000万以下	2,000万 1円以上	
	28.3%	15.8%	29.2%	18.3%	8.3%	

※富山県：未回答1箇所（3%）あり

※活動場所は、すべての団体が、固定した常設スペースを持っていると回答

⑦開所日数（週あたり）

	週1日	週2日	週3日	週4日	週5日以上	不定期
富山県	4箇所 14%	2箇所 7%	3箇所 10%	1箇所 4%	18箇所 62%	1箇所 3%
全国 ※割合のみ	週1～2日 7.2%		週3～4日 22.2%		週5日以上 70.6%	

※週5日以上の開設が最も多いが、ヒアリングによると、児童生徒が毎日利用することは稀の場合もあり、週に1～3回程度の利用が多い。なかには1週間毎日通った後、1か月以上ずっと利用がない児童生徒もいる

⑧1日あたりの開所時間

	1～2時間	3～4時間	5～6時間	7～8時間	9～11時間	11時間以上
施設数	4箇所 14%	5箇所 17%	12箇所 41%	4箇所 14%	2箇所 7%	2箇所 7%

※「5～6時間」が最も多く、41%を占める

⑨ADHD、学習障害等の生きづらさを抱えた方の利用の有無

	有	無
施設数	23箇所 79%	6箇所 21%

⑩利用料について

1回 300円から、月額 58,000円と様々である。

⑪学校との連携について

	必要	不要
施設数	26箇所 90%	3箇所 10%

⑫ スタッフの人員（ボランティア・嘱託等含む）

	0～1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
施設数	4箇所 14%	2箇所 7%	4箇所 14%	5箇所 17%	3箇所 10%	11箇所 38%

※ 6人以上のスタッフが常駐している施設が、38%を占める

⑫' スタッフの人員（正社員のみカウントした場合）

	0～1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
施設数	14箇所 48%	5箇所 17%	4箇所 14%	2箇所 7%	0箇所 0%	4箇所 14%

⑬ スタッフの資格（複数回答可）

	教員免許	福祉に関する資格	心理に関する資格	その他
施設数	21箇所 72%	14箇所 48%	6箇所 20%	9箇所 31%

※ 72%の施設に、教員免許を取得したスタッフがいる

フリースクール等運営事業者からの意見

1. 在籍校との連携、不登校に対する理解

- ・ 学校との連携に抵抗感をなくしていただけると良い。学校と双方向の情報交換が定期的にできると嬉しい。
アプリやメールなどを使って、学校の様子（授業の進捗状況や行事など）を知ることができれば助かる。
- ・ フリースクール等が、不登校児童生徒だけでなく、保護者も情報交換できる場として機能しているところもある。学校のSSWやSC等と繋がる機会があるとよい。
- ・ 不登校児童の件数のみならず、どの機関に繋がっているか等のデータを、関連機関のネットワーク会議などで、最低でも学期に1度共有して、支援のとりこぼしのないようにして欲しい。

2. フリースクール等間での連携について

- ・ フリースクール単体での経営は、なかなか難しい。ほかの事業と連携して経営していくことが課題。
- ・ フリースクール等同士での連携もできる場があるとよい。

3. こどもの居場所および多様な学び場についての情報発信

- ・ フリースクール等の利用について、対外的にもっとPRしてほしい。不登校になった際に、どうすればよいか分からないといった保護者の声を聞く。多様な学びの場として、フリースクール等があることを県民に知ってほしい。

4. 運営上の財政面における工夫

- ・ 収支をバランスよくしたい（赤字を小さくしたい）。国、自治体からの補助金があると嬉しい。
- ・ 「こどもの居場所」として、フリースクール等に公からの資金提供があれば、利用料を少し減額できる。経済的な理由で、利用を断念する保護者もいる。
- ・ 現在、運営は赤字なので、行政の支援拡充、補助金の活用等を積極的に働きかけていくと同時に、自主財源の確保を目指したい。不登校の児童が増えてから、場所を整備しては遅い。

○フリースクール等の運営における課題

1. 財政的な不安定さ

- ・運営主体が様々であり、また、利用料、助成金や寄付に依存しており、安定した収入源が確保しづらい。
- ・財政規模は千差万別であり、法定サービス化されていないため、持続可能性に課題。

2. 社会的認知の不足

- ・フリースクール等の存在や役割が一般に十分に理解されていない。
- ・県民向けの情報発信やフリースクール同士の意見交換の必要性がある。

3. 学校との不十分な連携

- ・在籍校との連携が不十分で、評価などで不利になるケースがある。

4. 地域格差とアクセスの問題

- ・富山市や県西部に多く、施設がない市町村もある。

5. 新たに開設されたフリースクールが多く、現在は試行錯誤の段階

- ・開設初期の事業者は、教育・福祉・経営に十分な経験がない場合もある。

【参考】フリースクール等の設立以降の経過年数 (N=29)

	1年以下	2年	3年	4年	5年以上	10年以上
施設数	10箇所 34%	5箇所 17%	2箇所 7%	1箇所 3%	6箇所 21%	5箇所 17%

【参考：富山県こどもの居場所づくり支援事業（令和7年度）】

不登校など様々な困難を抱えるこどもが、学校以外の居場所で安心して過ごせるよう、市町村との連携により、民間団体における「居場所の開設」や「特色ある取組み」を支援するもの。

【事業内容】

- ①補助先：市町村
- ②補助対象事業者：不登校等、様々な困難を抱えるこどもの支援を行うことを目的としている団体
- ③補助率：（1）市町村は、事業の実施主体が、事業を実施するために必要な経費に対し助成
（2）県は、市町村が実施する助成事業に対して、補助を行うものとする（市町村補助額の1/2）
- ④補助対象：（1）新たな「こどもの居場所の開設」（補助基準額：1箇所当たり50万円上限）
（2）新たに実施する「特色ある取組み」（補助基準額：1箇所当たり10万円上限）

03 アンケート結果（詳細）

県内のフリースクール等の実態を理解するため、29の施設を対象にアンケート調査を行いました。ここでは、その回答をもとにした集計結果をご紹介します。

対象者：富山県内のフリースクール等 36施設・団体

回収数：29件（80%）

回収方法：インターネット or 用紙（郵送）

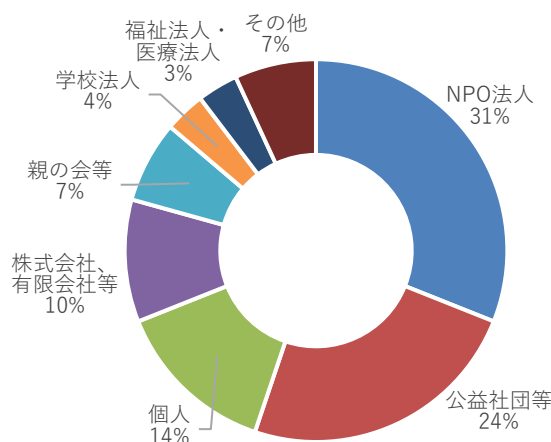
① 施設概要

Q1. 貴団体・施設の形態を教えてください。※単一回答 N=29

- ・ 特定非営利活動法人（NPO法人） 9
- ・ 公益社団・財団法人、一般社団・財団法人 7
- ・ 個人（夫妻、家族も含む） 4
- ・ 株式会社、有限会社等の法人 3
- ・ 親の会など、数人の任意団体 2
- ・ 学校法人（準学校法人を含む） 1
- ・ 福祉法人・医療法人 1
- ・ その他 2

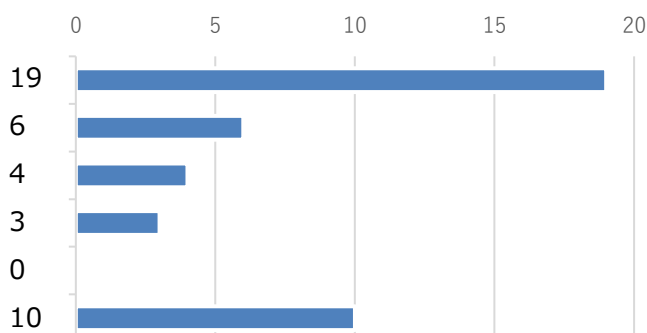
【その他】

- ・ 各種学校、認定NPO法人



Q2. 貴団体・施設の活動は次のどれに当てはまるか教えてください。※複数回答可 N=29

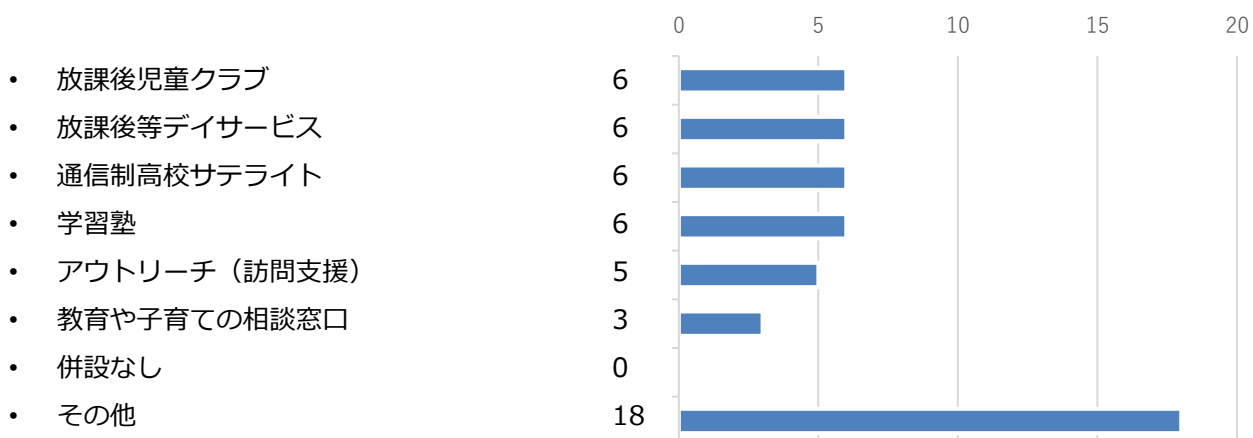
- ・ フリースクール 19
- ・ オルタナティブスクール 6
- ・ 塾・予備校 4
- ・ フリースペース 3
- ・ オンラインの居場所 0
- ・ その他 10



【その他】

- ・ コミュニティカフェの運営、こども・若者サポート（フリースクール、学習サポート、体験プログラム）、就労サポート、相談、シェアハウスの運営
- ・ 通信制高校、学童保育、児童館、放課後等デイサービス
- ・ 不登校に関わる親、学校職員、地域の方々の交流の場及び癒しの場
- ・ 絵や工作を自由に楽しめる教室、共同生活寮
- ・ 平日通園型の幼稚園（一部小学生受入）と、週末や長期休暇のイベント型自然体験活動
- ・ 運動教室
- ・ こどもの居場所・食堂

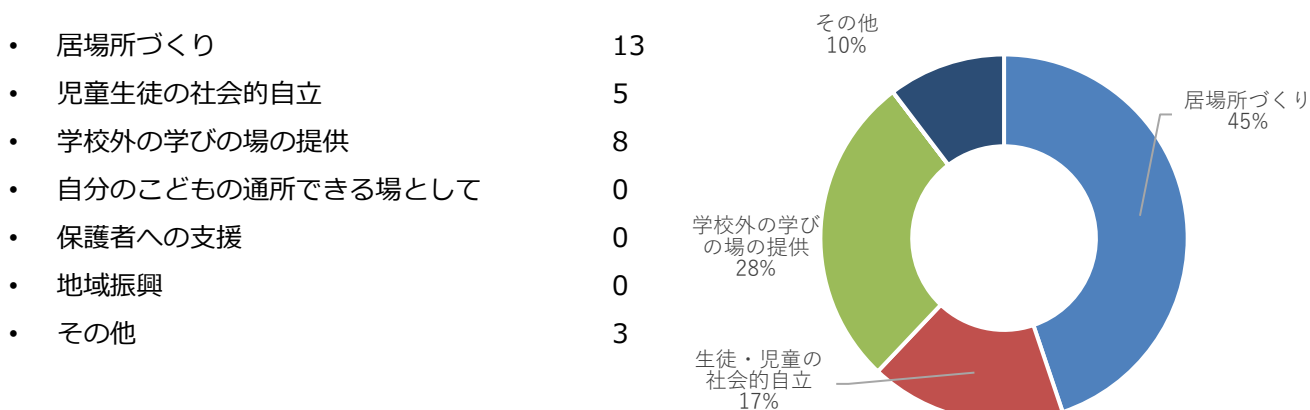
Q3. 貴団体が携わるフリースクール等施設以外の実施状況を教えてください。※複数回答可 N=29



【その他】

- 生活介護（障害者総合支援法）、居宅介護・移動支援・行動援護（障害者総合支援法）、指定特定相談支援（障害者総合支援法）、指定障害児相談支援（障害者総合支援法）、共同生活援助（障害者総合支援法）、障がい児相談、産前産後ヘルパー派遣事業、子育て世帯訪問支援
- カウンセリングによる心理支援
- ひとり親家庭学習支援、困窮家庭支援
- 生活と学習の塾
- 大人向け、こども向けのイベントの企画・実施
- 富山型デイサービス、こども食堂
- 親の会のような語り合いの場の運営
- 職業体験学習事業・認定農業法人
- 就労継続支援B型事業所
- 平日通園型幼稚園（一部小学生受け入れ）と、週末や長期休暇のイベント型自然体験活動
- 親の会
- 英語教室
- ピアノ教室
- 各種学校高等学校技能連携校
- 市委託の学習支援事業
- スポーツクラブ

Q4. 設立目的として、もっとも近いものを教えてください。※単一回答 N=29



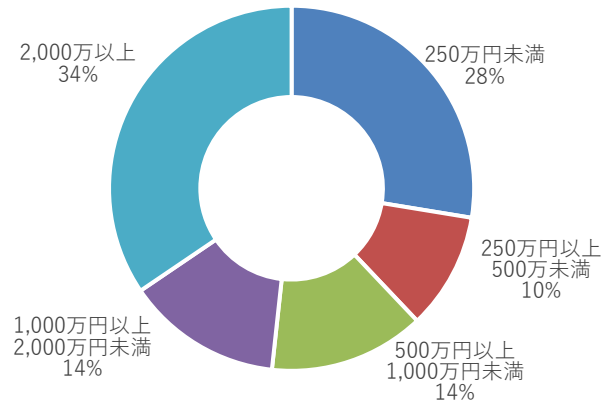
【その他】

- 不登校を含めて支援が必要なこどもたちの生活力・学力を高める場
- こどもたちが自分らしく生きていくための学びの場の確立、またそれを通じ、日本の教育、大人のマインドセットの変革につなげ、ゆくゆくは、まちや国の発展に寄与すること
- 不登校やひきこもりの社会的自立

※昨年度の場合でお答えください。おおよそで結構です。

Q5. 他事業も含む全体の財政規模について教えてください。 ※単一回答 N=29

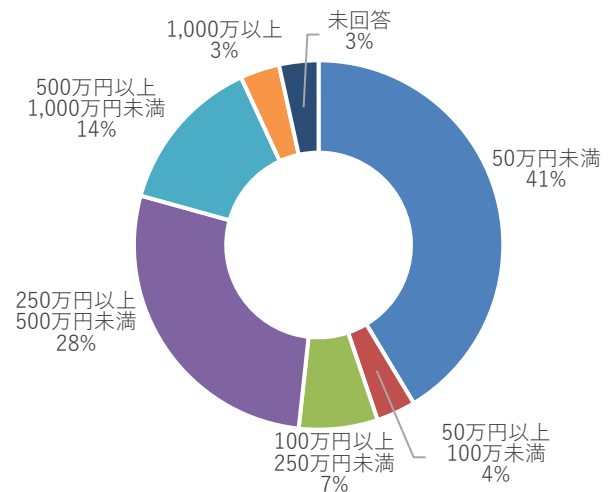
• 250万円未満	8
• 250万円以上500万未満	3
• 500万円以上1,000万円未満	4
• 1,000万円以上2,000万円未満	4
• 2,000万以上	10



※昨年度の場合でお答えください。おおよそで結構です。

Q6. フリースクール等のみの財政規模について教えてください。 ※単一回答 N=29

• 50万円未満	12
• 50万円以上100万未満	1
• 100万円以上250万円未満	2
• 250万円以上500万円未満	8
• 500万円以上1,000万円未満	4
• 1,000万以上	1
• 未回答（非公表）	1



Q7. 活動場所について、もっともあてはまるものを教えてください。 ※単一回答 N=29

• 固定した常設スペースを持っている	29
• 固定したスペースを持っているが、別の場所で活動することが多い	0
• 固定した場所はない	0

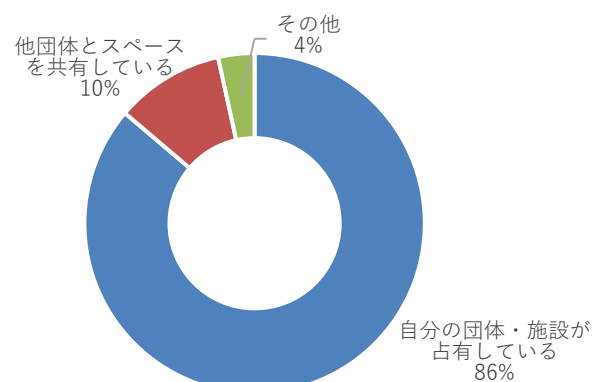
**Q7-1. 普段活動している場所は、あなたの団体・施設だけが使用していますか？
それとも他団体との共有で使用していますか？ ※単一回答**

N=29

• 自分の団体・施設が占有している	25
• 他団体とスペースを共有している	3
• その他	1

【その他】

- シェアハウスの1階を借用している



Q8. 次の活動はどのような場所で行っていますか？それぞれについて
「主に自分の場所で」～「その他」のいずれかを選んでください。

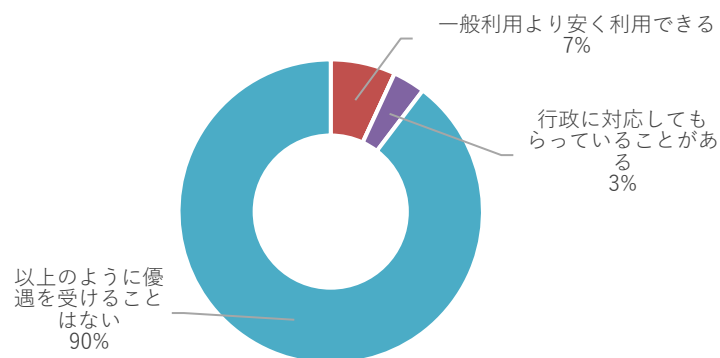
項 目	主に自分の 場所で	主に他の場所を 借りて	その他	未実施	未回答
屋外スポーツ	3	5	1	3	17
屋内スポーツ	6	4	0	2	17
教科学習	11	0	1	1	16
カウンセリング	10	0	0	2	17
音楽	8	0	0	4	17
料理	9	1	0	3	16
図画工作・ものづくり	13	0	0	0	16
食事	13	0	0	0	16
ミーティング	12	0	0	1	16
事務	12	0	1	0	16
応接	12	0	0	0	17
宿泊	3	3	0	6	17
集会	5	1	1	5	17
演劇・演台表現	1	2	0	3	23

Q9. 体育館、プール、運動場や、公民館など公共施設を利用する際に、
次のような優遇を受けることがありますか？

※複数回答可

N=29

- 施設利用料の予約が、一般予約の前に優先的にできる 0
- 一般利用より安く利用できる 2
- 無料で利用できる 0
- その他、利用しやすいように、行政に対応してもらっていることがある 1
- 以上のように優遇を受けることはない 26



Q10. フリースクール等の運営にかかる経費(月額)の内訳を教えてください。(千円単位で記載)

単位：千円

項 目	人件費	賃貸料 (月々)	光熱水費 (月額)	事務費	教材費	広告 宣伝費	交通費	その他	合計
金額（最小値～最大値）	0～ 1,400	0～ 287	0～ 40	0～ 82	0～ 60	0～ 30	0～ 50	0～ 295	8～ 1,570

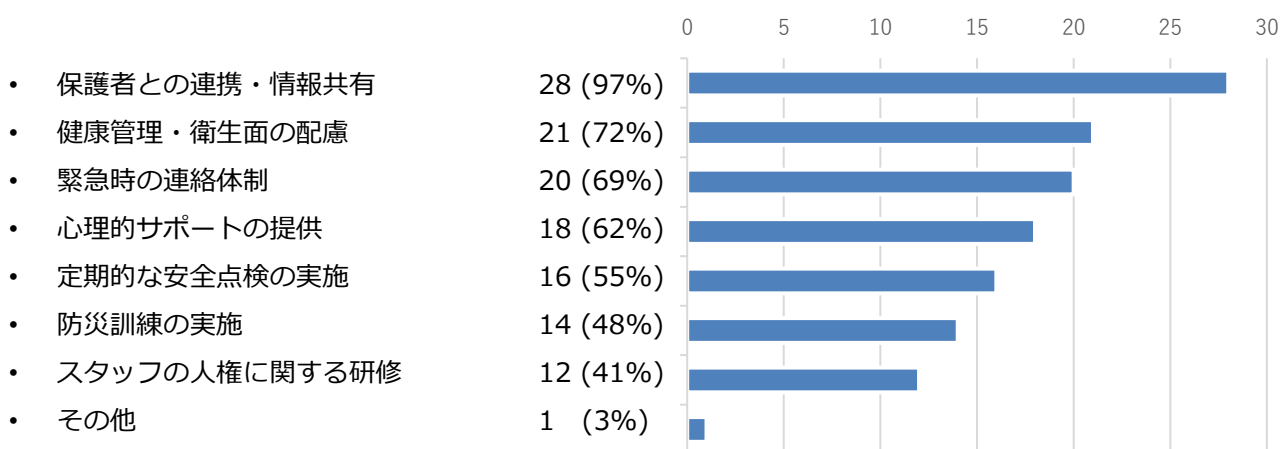
Q11. 団体・施設で使用・所有している設備について教えてください。それぞれについて「ある」～「必要なし」のいずれかを選んでください。

N=29

項 目	ある	検討・準備中	必要だが無い	必要なし	未回答
パソコン	24 (83%)	0 (0%)	3 (10%)	1 (3%)	1 (3%)
インターネット環境	27 (93%)	1 (3%)	0 (0%)	1 (3%)	0 (0%)
ゲーム機器	12 (41%)	3 (10%)	6 (21%)	8 (28%)	0 (0%)
テレビ	18 (62%)	0 (0%)	1 (3%)	10 (34%)	0 (0%)
蔵書	24 (83%)	0 (0%)	3 (10%)	2 (7%)	0 (0%)
卓球台	10 (34%)	1 (3%)	6 (21%)	11 (38%)	1 (3%)
ホワイトボード	20 (69%)	2 (7%)	3 (10%)	4 (14%)	0 (0%)
学校机	15 (52%)	1 (3%)	3 (10%)	10 (34%)	0 (0%)
ピアノ	14 (48%)	1 (3%)	2 (7%)	12 (41%)	0 (0%)
音楽機材	13 (45%)	1 (3%)	7 (24%)	8 (28%)	0 (0%)
調理設備	19 (66%)	1 (3%)	4 (14%)	5 (17%)	0 (0%)
美術設備	11 (38%)	2 (7%)	9 (31%)	7 (24%)	0 (0%)
スポーツ用具	13 (45%)	7 (24%)	6 (21%)	3 (10%)	0 (0%)
遊具 (ブロック、トランプ等)	23 (79%)	0 (0%)	4 (14%)	2 (7%)	0 (0%)
エアコン	27 (93%)	0 (0%)	1 (3%)	1 (3%)	0 (0%)
印刷機	21 (72%)	0 (0%)	4 (14%)	4 (14%)	0 (0%)
コピー機	25 (86%)	1 (3%)	1 (3%)	1 (3%)	1 (3%)
車	14 (48%)	2 (7%)	5 (17%)	8 (28%)	0 (0%)
ビデオカメラ	9 (31%)	3 (10%)	3 (10%)	14 (48%)	0 (0%)
お風呂・シャワー	12 (41%)	0 (0%)	1 (3%)	16 (55%)	0 (0%)
トイレ	28 (97%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (3%)	0 (0%)

Q12. 安心・安全への配慮や対応として行っていることを教えてください。※複数回答可

N=29

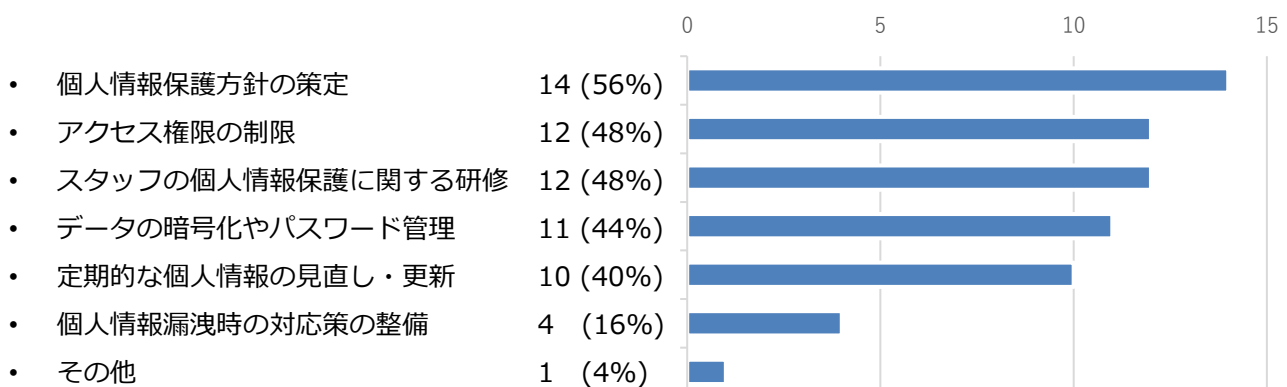


【その他】

- 虐待防止研修、安全管理研修、感染対策研修

Q13. 個人情報の管理に関して行っていることを教えてください。※複数回答可

N=29

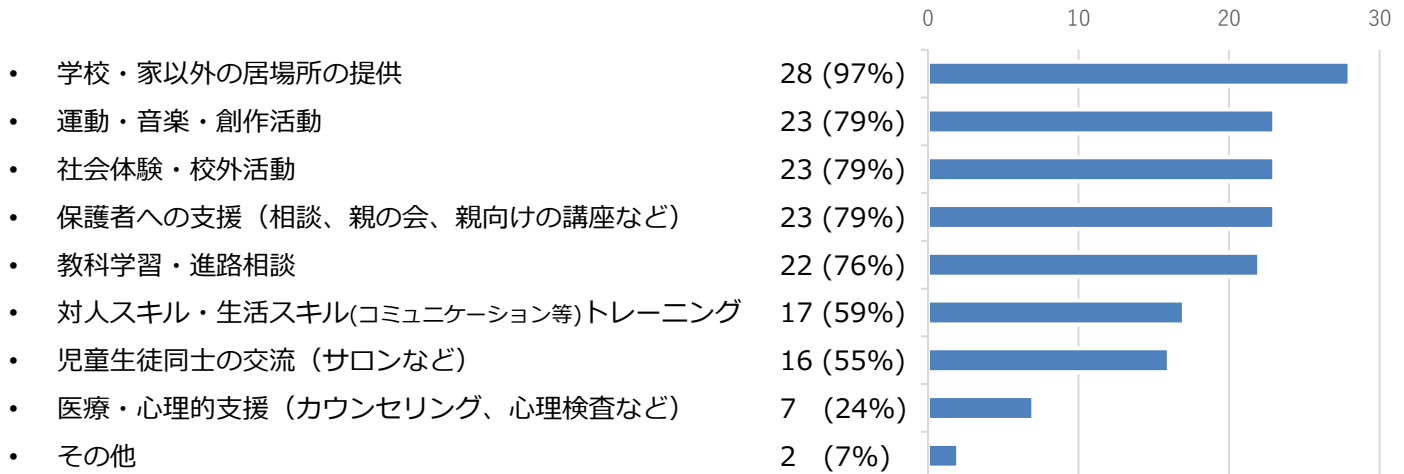


【その他】

- 個人情報は鍵付きの棚で管理

② 活動内容

Q14. 活動内容を教えてください。※複数回答可 N=29



【その他】

- ・ 就労体験（販売のお手伝い、お店のデコレーション、お店のチラシ作り）
- ・ 調理、野外活動、販売体験

Q14-1. Q14で「保護者への支援」にチェックされた場合、具体的な内容を教えてください。 ※自由記述

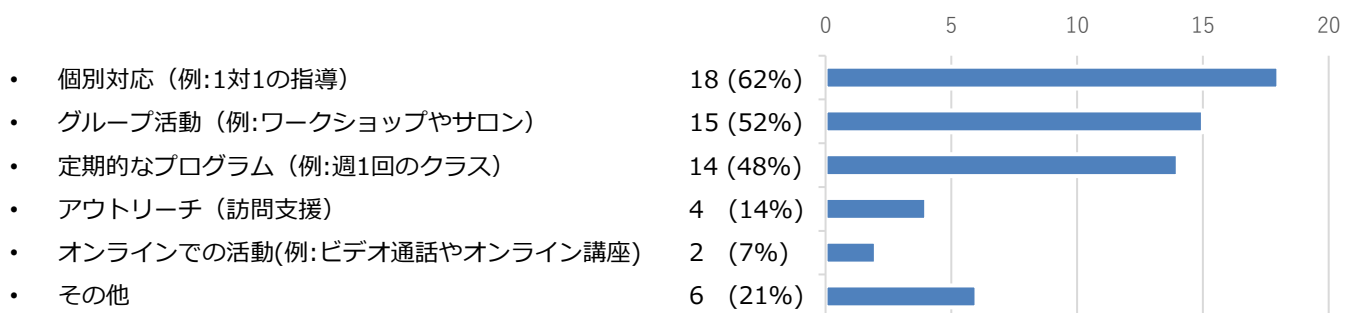
- ・ 保護者会の実施、個別相談
- ・ 相談対応。親の会の開催。親向けの研修会も開催している
- ・ 医師、公認心理士を講師に招いて、保護者向け研修会の実施。他機関連携、相談業務
- ・ 週に1回集団で話せる機会を設ける。希望があれば個別で面談及びカウンセリング
- ・ 随時相談受付（例：食料支援、進路相談、DVや虐待についての相談など）
- ・ 相談日、親の会
- ・ 保護者の相談に応じ、子どもや家族、学校への対応の仕方を一緒に考え、アドバイス
- ・ 月1回のペアレンツデー開催（保護者と環境整備、保護者向けの講座、茶話会など）
- ・ コメント参加可能なYouTubeライブ配信・オンライン相談
- ・ 大人向けイベント開催
- ・ 放デイと連携しながら、ご家庭などでの困り感などをお聞きし必要な支援を一緒に考え、実施
- ・ カウンセリング、個別面談など
- ・ 日々のコミュニケーションは月に1回は必ず対面で、日々、ラインで情報を共有。また、お子様のことだけでなく、親御さんにもメンタルサポートとし、勉強会を定期的に実施。ライン（個別相談）
- ・ 保護者同志の集まり
- ・ 保護者の会(語り合いの場)。情報共有、意見交換、交流、学校との連携サポート、HSCへの理解促進等
- ・ 父母研修会（1泊2日）
- ・ 看護師や保育士や管理栄養士など専門職員が相談に対応
- ・ 通園児の保護者向けのカウンセリンググループの実施
- ・ 月に1回「おしゃべり会」
- ・ 個別相談、座談会（保護者同士で集まり悩みの共有。「アンガーマネジメント」等のテーマを決め研修）
- ・ 保護者座談会、個別相談、セミナー
- ・ ラインにて参加希望の連絡がその都度ある。こどもの様子やその日の希望もラインで連絡がある。ラインにて返信。
- ・ アンガーマネジメント講座
- ・ 生活上の相談、ケース対応、行政や関係機関との連絡調整

Q15. 活動するにあたって大切にしていることや、注意していることを教えてください。

※自由記述

- ・ 特別なプログラムは設けず、こどもたちが「やりたいことをとことん」やることを大切にする
- ・ 若者スタッフとこどもたちとの自然な交流を基本にする
- ・ 自分で決めることを大切に選択を尊重する
- ・ 年齢を問わず様々な人にかかわってもらうようにする
- ・ 保護者に寄り添い、話を聞く
- ・ こどもたちが安心して過ごせること、無理強いすることなく、自主的に活動できる環境作り、スタッフの関わり方を大事にしている
- ・ 本人の意思を一番優先事項にしている
- ・ モンテッソーリで大事にされているコンセプトを参考、見学や体験に来た大人、こどもたちに理解してもらう
- ・ こどもと対等に向き合う
- ・ こども自身の意思、選択の尊重
- ・ 安心安全な場の提供
- ・ 行動規範（セーフガーディング）を定め、スタッフに徹底している
- ・ こどもは日々変わり成長していることを考慮し、こどもの変化を見逃さないようにし、その対応を常に検討、更新すること
- ・ 参加の敷居が高くないよう心がけています。大人にとってもいろんな学びの機会になるようにしています
- ・ 極力ルールは最低限とし、その時その時、その場その場でどうするかを決めている
- ・ 日常から離れ、こどもが自由に創作を楽しみ、心が元気になって欲しいと願いながら運営をしています
- ・ こどもたち、保護者が安心して活動できるように、しっかりと情報管理、共有プライバシーの保護、また、何よりも本人たちの心の部分を大切に、自分達のこだわりややりたいことを押しつけないようにしています。また、学校や地域との連携を大切に、地域に根付いたみんなで子育て、みんなで共有を実施していきます
- ・ 一人一人の意見を大切にきく
- ・ 中学生はまだ少しなので、高校生とうまく交流できるよう声かけやイベント案内すること
- ・ こどもの感受性を尊重し理解すること、安心できる環境作り、個別サポート重視、スタッフの理解と研修、感覚過敏への配慮、心身の健康を第一に考える
- ・ こどもの得意なことや興味があることを活かした活動をし、自主性や自信につなげられるよう努めています
- ・ お子さんたちの精神的苦痛にならないように、個々の様子を観察しながら活動している
- ・ こどものやりたいことを実現できるように進めている
- ・ 保護者の困り感、児童本人の困り感はそれぞれ違うので、別の課題として支援しつつも、それぞれが変化できるきっかけや助けとなるサポートをする
- ・ こどもひとりひとりのペースに合わせた関わりで社会性を身につけられる場にしていきたいと考えています

Q16. 活動内容の提供方法について教えてください。※複数回答可 N=29



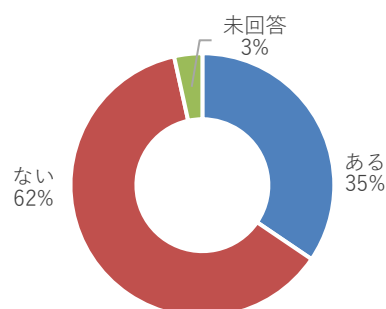
【その他】

- ・ 自由に過ごせる場所の提供
- ・ 好きに過ごしてもらうものを見守る
- ・ 一日一日の予定を決めて、実施。（〇日自然体験、〇日お菓子作り、〇日図書館、〇日運動等）
- ・ 特別なプログラムはない。
- ・ 月に一度「こどもカフェ」を実施
- ・ 年に数回こども企画のイベントを実施
- ・ 曜日ごとの活動 （月）調理活動、（水）運動の日、（金）工作と学習
- ・ こどもと相談しながら日々活動内容を決めている。

Q17. 本人と家族が入会および利用の意思を持っていても入会を受け入れない条件が年齢以外にあれば教えてください。※単一回答

N=29

- ある 10
- ない 18
- 未回答 1



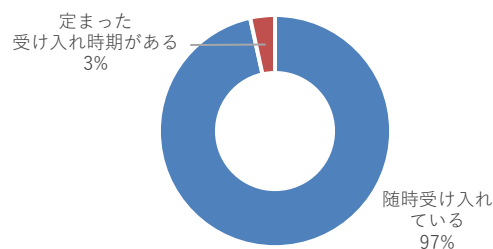
【「ある」場合の内容】

- 放課後等デイサービスの為、医師の診断書又は意見書が必要
- 他害がひどい場合
- 暴力行為など、場の安心安全をそこなうおそれのある場合
- 重度の障害をお持ちの場合
- 日中一時支援の受給者証の取得
- 主体性を大切に活動しているため、十分なケアの必要な段階にあるお子さまには、連携先をご紹介
- 野外で活動できる健康状態かどうか

Q18. 受け入れ時期について教えてください。※単一回答

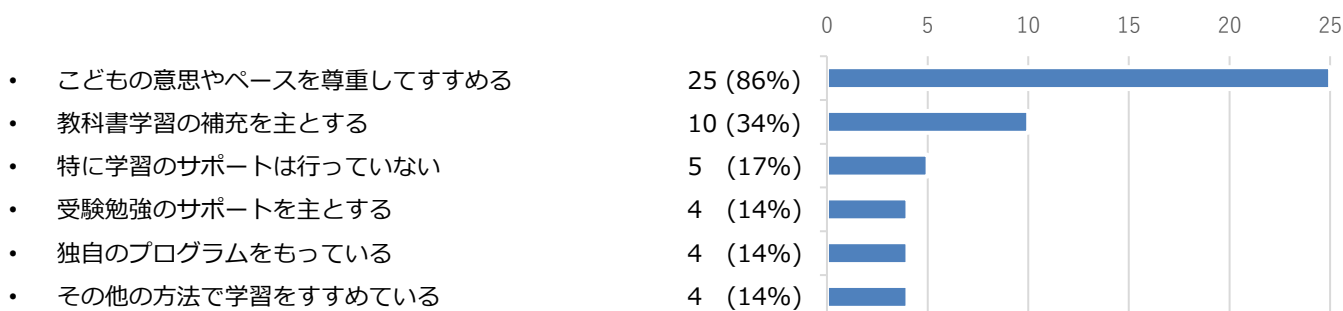
N=29

- 随時受け入れている 28
- 定まった受け入れ時期がある 1



Q19. 児童生徒たちの教科学習はどのようにすすめていますか？※複数回答可

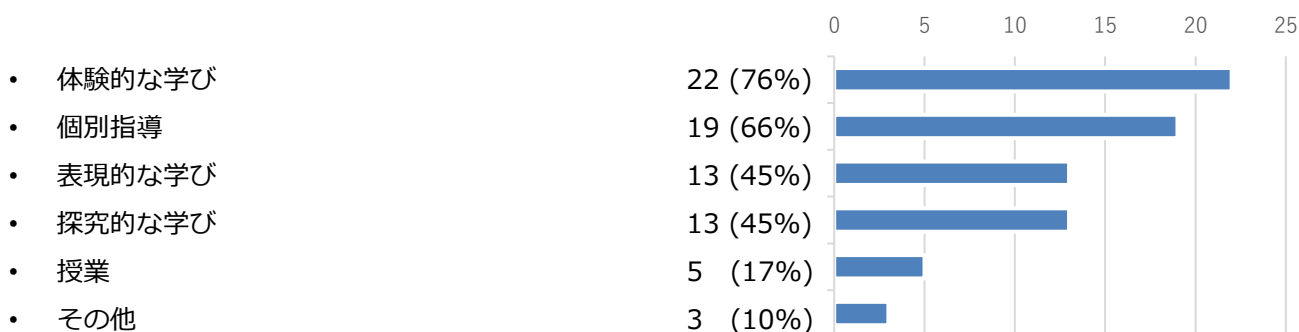
N=29



Q20. 定期的な学びのプログラムはありますか。※複数回答可

N=29

(学びのプログラム = 教科書学習に限らず、全般的な(体験学習含む)学びを指す)

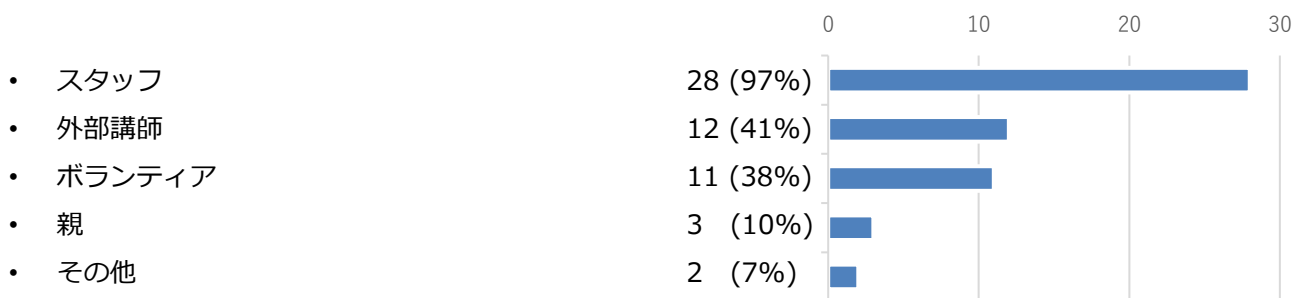


【その他】

- 特に狙って学ばせようとはしていませんが、人との交流が自然と学びになっているように思います
- 好きなことを通して、同世代の方や、理解のあるスタッフと関わりながら、人との関わり方、社会性の学び

Q21. 学びのプログラムで教える人は誰ですか？※複数回答可 N=29

(学びのプログラム = 教科書学習に限らず、全般的な(体験学習含む)学びを指す)

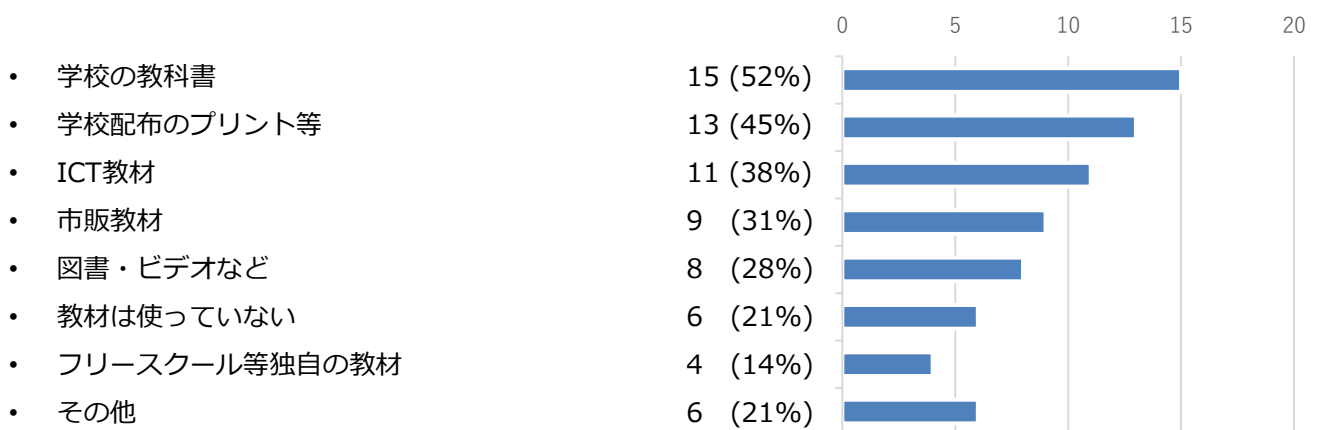


【その他】

- 誰でも

Q22. 学びのプログラムで使っている教材を教えてください。※複数回答可 N=29

(学びのプログラム = 教科書学習に限らず、全般的な(体験学習含む)学びを指す)



【その他】

- その子の学びたいことに関してのYouTube動画等
- こどもが持ち込んだもの全てオッケー
- 学校や塾で使用するために作成された教材、提携先が作成した教材
- インターネット上のフリー学習素材
- プログラムによって異なるが、例えばD I Yのプログラムであれば工具や木材、塗料など必要なもの

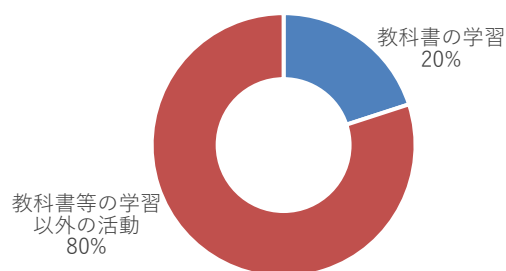
Q23. 活動中に児童生徒がICT機器（スマホ・タブレット端末・PC等）を活用することはありますか？

※単一回答 N=29



Q23-1. どのような活動面でICT機器を活用しますか？ ※単一回答 N=25

- 教科書の学習 5
- 教科書等の学習以外の活動 20



【教科書等の学習以外の活動】

- イベント準備、検索、ゲーム、通信、ゲーム、ユーチューブ鑑賞
- プログラミング
- 一例ですが、散歩をしながら道端にある植物や昆虫に興味を持った場合、iPadのGoogleレンズで写真を撮り、その花の名前や虫の名前を知り、そこから具体的な情報を検索するなどして、学びが深まっています
- 教科書の学習もそうですが、そうじゃないものについても使用します
- ゲームや動画を見たり調べ物をする時等
- 調査、翻訳、動画の視聴、調べものなど
- チャットGPT、プログラミング、Canvaを利用して販促物の作成、クラウドファンディングプロジェクトなど
- アート活動、遊び、娯楽
- ホームページ作り、イラスト作成、Youtube動画を作成しアップ

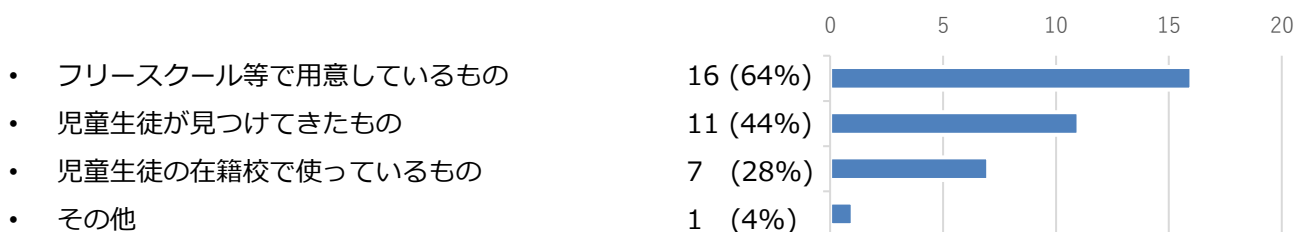
Q23-2. 使用している端末は誰のものですか？ ※複数回答可 N=25



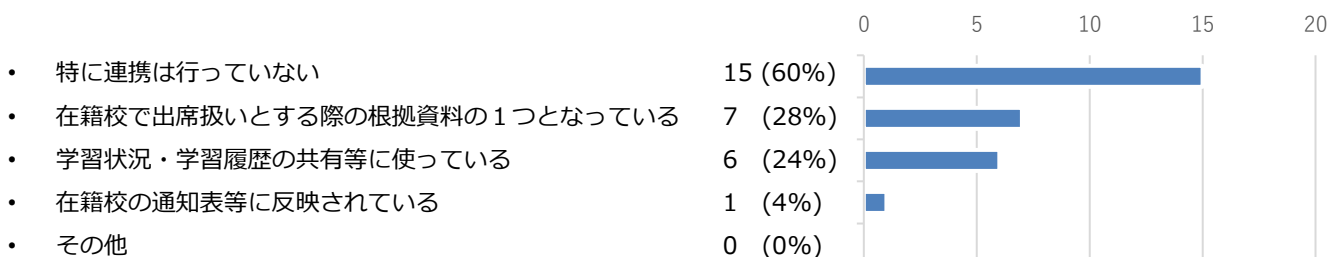
【その他】

- 用意しているものもありますが、持ち込みも可能です

Q23-3. 利用しているサービスやアプリについて教えてください。 ※複数回答可 N=25

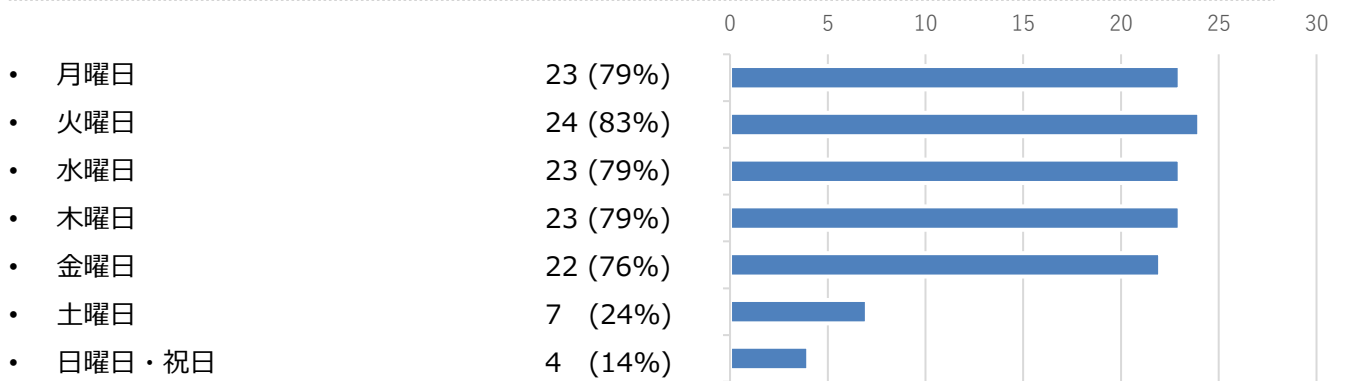


Q23-4. ICTを活用した学習等について在籍校との連携を行っていますか？ ※複数回答可 N=25

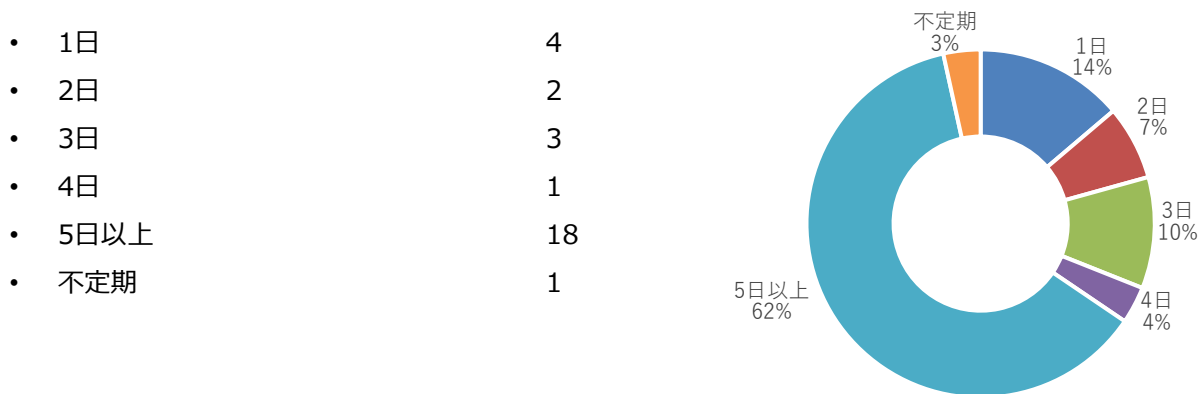


③ 開所日数・時間

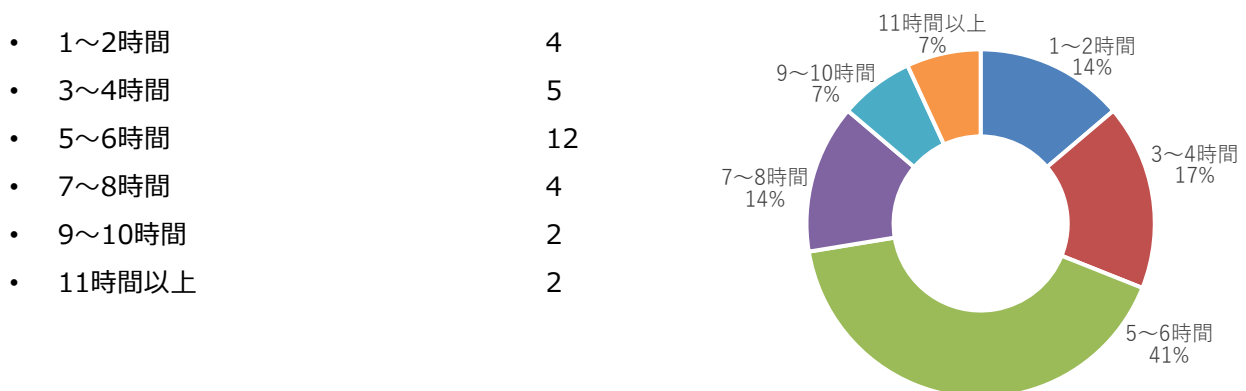
Q24. 開所曜日を教えてください。※複数回答可 N=29



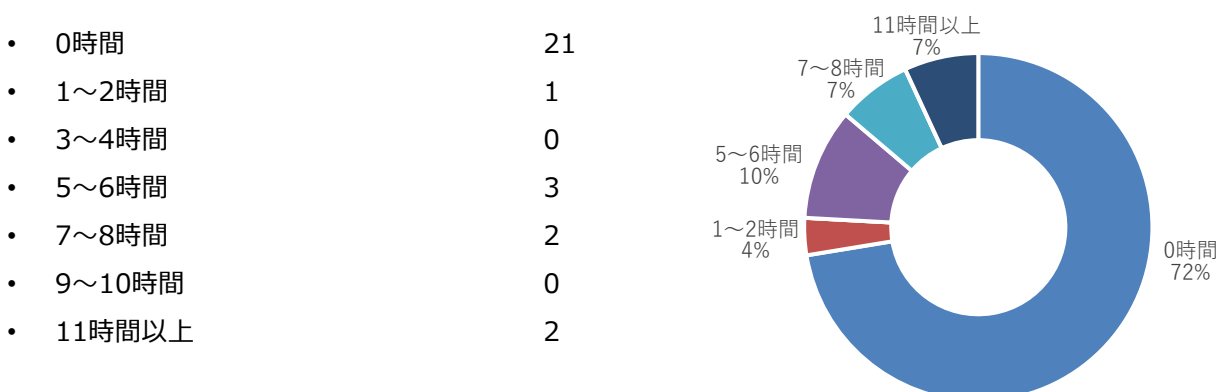
Q25. 週当たりの開所日数を教えてください。※単一回答 N=29



Q26. 平日の開所時間を教えてください。※単一回答 N=29



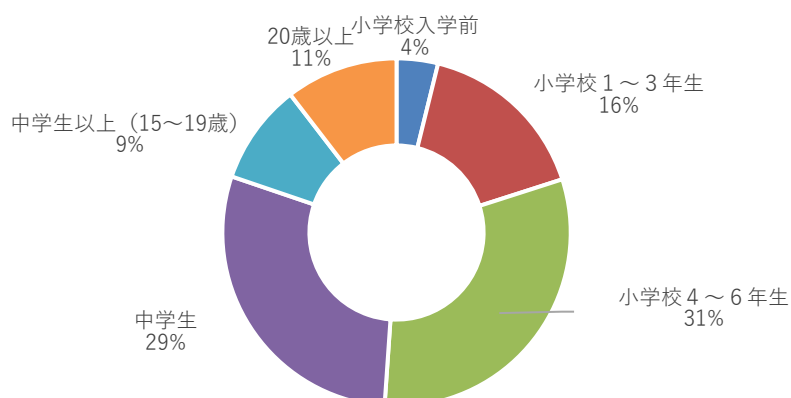
Q27. 土曜日の開所時間を教えてください。※単一回答 N=29



④ 利用者の状況

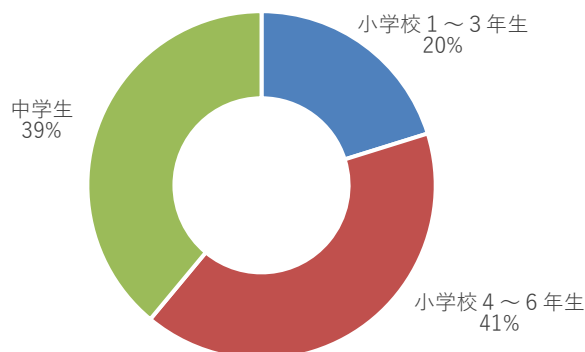
Q28. 現在の利用者数を記入ください。※全体数合計：364人（うち、小学生中学生は278人）

合計 利用 人数	小学校 入学前	小学校 1～3年生	小学校 4～6年生	中学生	中学生以上 (15～19歳)	20歳以上
	14人 4%	59人 16%	113人 31%	106人 29%	34人 9%	38人 11%



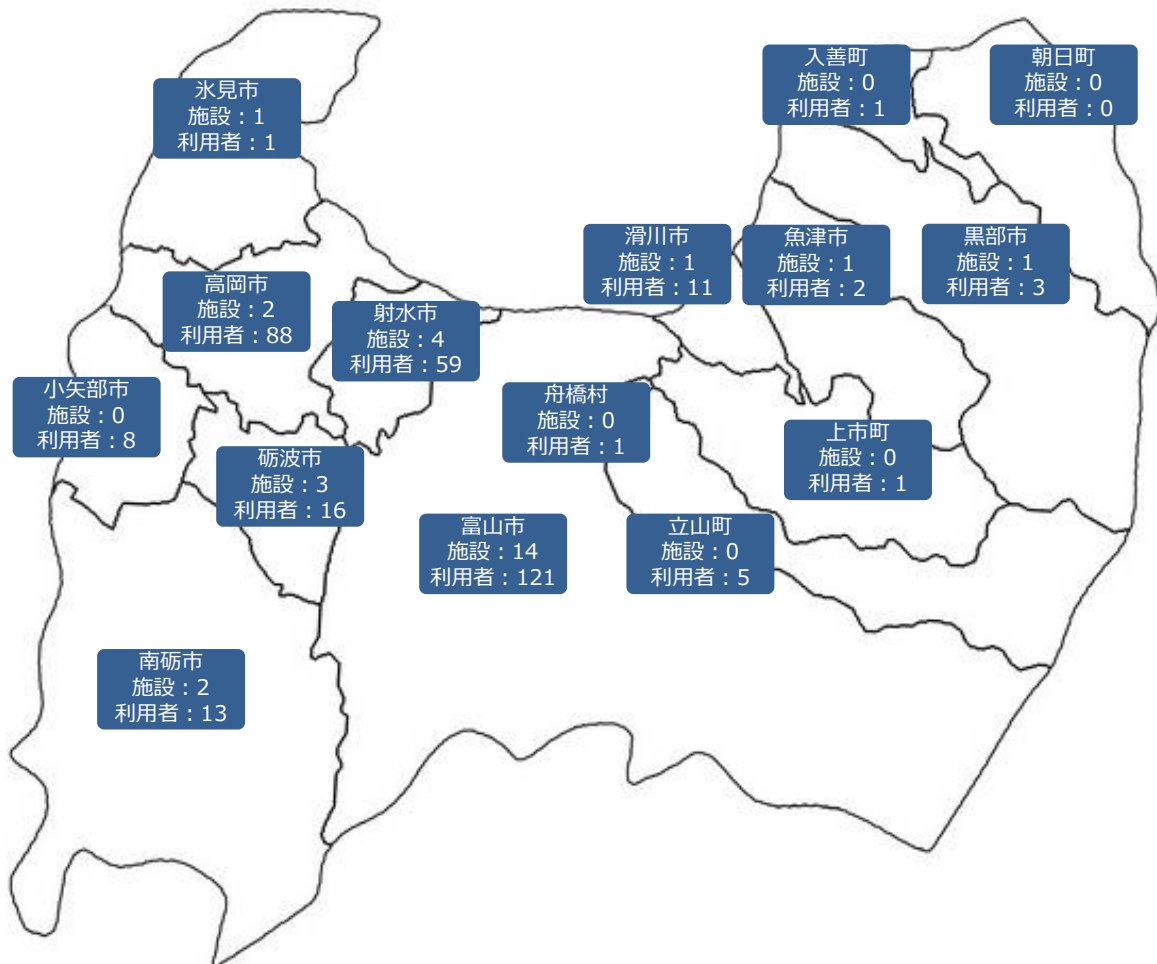
Q29.現在の在籍校における出席扱いのある利用者数を記入ください。※全体数合計：213人

合計 利用人数	小学校 1～3年生	小学校 4～6年生	中学生
	43人 20%	87人 41%	83人 39%



【参考】フリースクール等利用者の地域別分布マップ

Q30. 利用者の市町村別居住地を教えてください。※全体数合計：364人



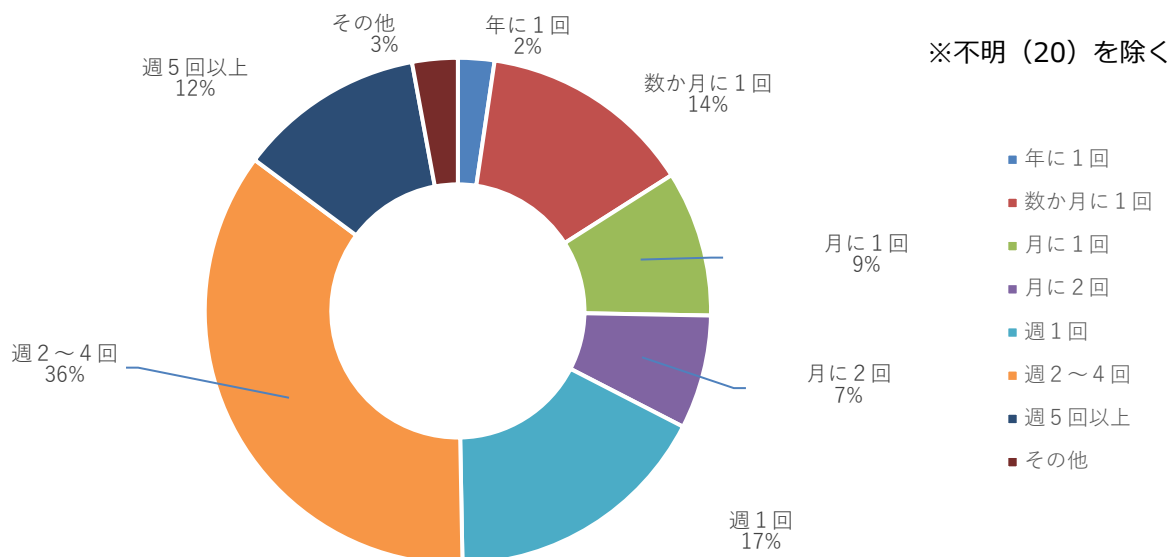
※地域不明 34人

※利用者は未就学児・小学生・中学生・高校生以上の総数（364人）

利用者の居住地	富山市	高岡市	射水市	魚津市	氷見市	滑川市	黒部市	砺波市	小矢部市	南砺市	舟橋村	上市町	立山町	入善町	朝日町	県外	不明	合計
利用者数	121	88	59	2	1	11	3	16	8	13	1	1	5	1	0	0	34	364

Q31. 児童生徒は、フリースクール等に、どの程度の頻度で利用していますか？

合計 利用 人数	年に1回	数か月に1回	月に1回	月に2回	週1回	週2～4回	週5回以上	その他
	8人 2%	47人 14%	32人 9%	25人 7%	59人 17%	122人 36%	41人 12%	10人 3%



※週5日以上の開設が最も多いが、ヒアリングによると、不登校の児童生徒が毎日利用することは稀であり、週に2～4回程度の利用が多い。なかには1週間毎日通った後、1か月以上ずっと利用がない児童・生徒もいる

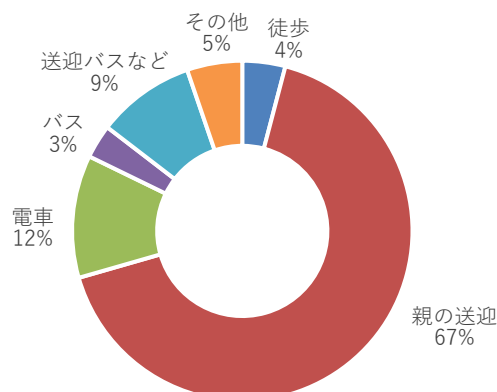
【参考】週当たりの開所日数を教えてください（Q25）

箇所数	週1日	週2日	週3日	週4日	週5日以上	不定期
	4箇所 14%	2箇所 7%	3箇所 10%	1箇所 4%	18箇所 62%	1箇所 3%

Q32. 児童生徒が、どのように通所しているのか教えてください。

- ・ 徒歩 14
- ・ 親の送迎 228
- ・ 電車 40
- ・ バス（公共交通） 11
- ・ 送迎バスなど 32
- ・ その他 18

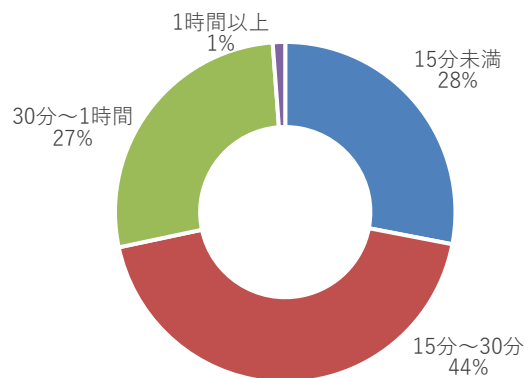
※不明（21）を除く



Q33. 児童生徒が、家からフリースクール等までかかるおおよその通所時間を教えてください。

- 15分未満 95
- 15分以上～30分未満 148
- 30分以上～1時間未満 92
- 1時間以上 4

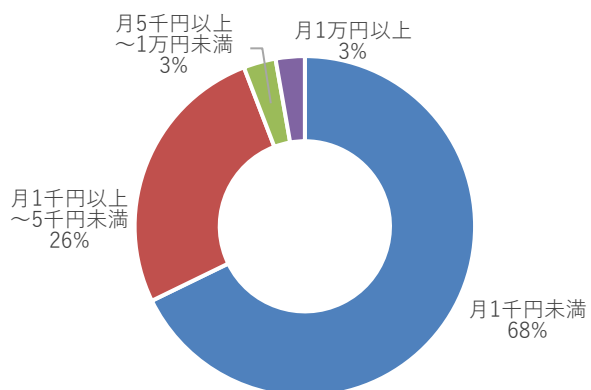
※不明（25）を除く



Q34. 児童生徒が、家からフリースクール等までの通所にかかる費用(概算)を教えてください。

- 月額1,000円未満 221
- 月額1,000円以上～5,000円未満 86
- 月額5,000円以上～10,000円未満 10
- 月額10,000円以上 9

※不明（38）を除く



Q35. 「会員制度」や「登録制度」を設けていますか？※単一回答 N=29

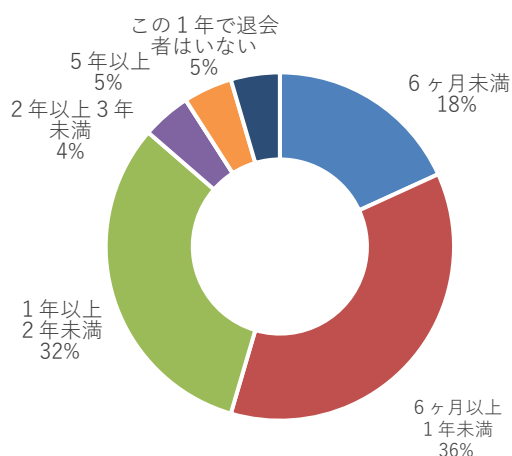
- 「会員制度」や「登録制度」を設けている → Q35-1～2へ 23
- 特に「会員制度」は設けておらず、利用するたびに名前を申し出る → Q36へ 4
- 名前等を申し出ずに、誰でも利用できる → Q36へ 2
- その他 → Q36へ 0

Q35-1. 設立から在籍（登録）者数は、累積しておよそ何人ですか？ N=29

合計：3,274人（累積人数）

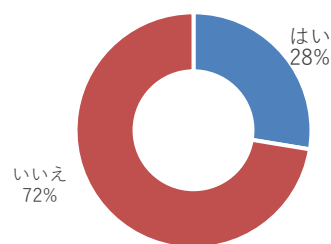
Q35-2. 在籍期間についておたずねします。この1年間で退会した人について、在籍期間を平均するとどのくらいですか？ ※単一回答

- 6ヶ月未満 4
- 6ヶ月以上1年未満 8
- 1年以上2年未満 7
- 2年以上3年未満 1
- 3年以上5年未満 0
- 5年以上 1
- この1年間で退会者はいない 1
- 不明 1



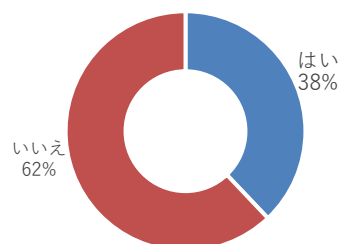
Q36. これまでに、経済的な理由で退会又は通わなくなった児童生徒はいましたか？※単一回答 N=29

- はい 8
- いいえ 21



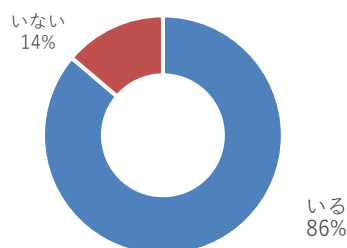
Q37. 経済的な理由で初めから入会又は通うことを諦めた児童生徒はいましたか？※単一回答 N=29

- はい 11
- いいえ 18



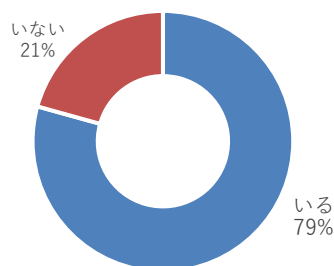
Q38. 貴団体・施設で、自閉スペクトラム症や起立性調節障がい等で通院している児童生徒はいますか？※単一回答 N=29

- いる 25
- いない 4



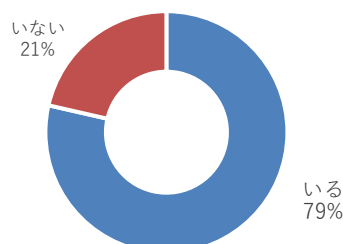
Q39. 貴団体・施設で、LD（学習障害）、ADHD、場面緘黙、HSC等の生きづらさを抱えた児童生徒はいますか？※単一回答 N=29

- いる 23
- いない 6



Q40. 児童生徒の活動に際して、何か保険に加入していますか？加入している場合はその保険を記入ください ※単一回答 N=29

- 加入している 18
- 加入していない 10
- 不明 1



【保険】（18施設中 16施設が記載）

- 傷害保険
- 塾総合保険
- スポーツ安全保険
- 施設賠償保険
- 賠償保険（損保ジャパン）
- 損害保険（AIG損保）
- スポーツ安全保険
- 傷害保険、火災保険、賠償保険
- フォームハート、スポーツ安全保険

- 東京海上日動
- 三井住友海上 塾総合保険
- スポーツ保険
- 損害保険、賠償責任保険
- 賠償責任保険
- 野外活動保険
- 塾総合保険
- スポーツ安全保険

⑤ 卒業後の進路等の状況

Q41. 中学校卒業後の進路等の状況を記入してください。

項 目	高校進学し、通信制以外で登校継続			高校進学し、通信制で登校を継続			高校進学し、不登校			就職（パート・アルバイト含む）			進学・就職していない ※1			把握していない			その他		
	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6
合計	5	12	18	8	7	11	0	0	2	3	2	7	0	0	4	0	0	0	0	0	2

※1 進学後退学または就職後退職を含む

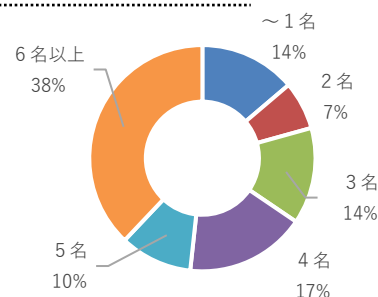
【その他】

- 当法人が設立してまだ1年半なので、今通所している子どもたちが進学、就職実績があまりないと言うのが実情です
- 当施設は「誰でも来ていいですよ。」という感じで開けてますので、大まかに挙げることはできますが、細かく実数を上げるのは困難です。
- 中学に進学し他県のフリースクールを活用
- 昨年度からスタートし、新年度で進学をした生徒はいませんでした
- 対象者なし
- 高校進学し、通信制以外で登校している生徒1人は、単位を取らないといけないうプレッシャーがストレスになっているとの理由にて、学校に行けない日も多くなっている
- 中学校を卒業した者はいない
- 小学生を主な対象とした居場所として設立した施設であり、開所から3年目のため高校等への進学、進路状況は該当者なし

⑥ スタッフの状況

Q42. スタッフ数を記入してください（ボランティアや非正規雇用を含む）。

施設数	0～1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
	4箇所 14%	2箇所 7%	4箇所 14%	5箇所 17%	3箇所 10%	11箇所 38%



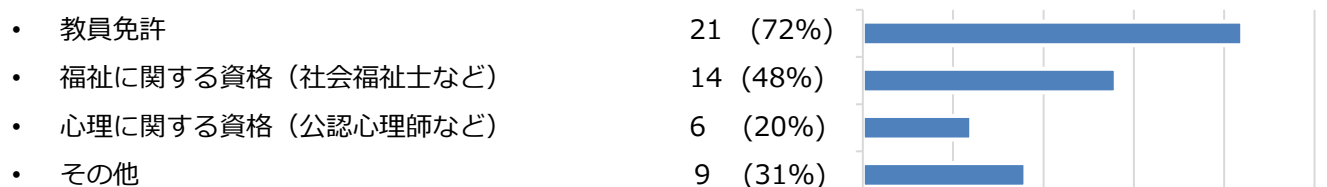
Q42-1. うち、正社員であるスタッフ数を記入してください。

施設数	0～1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
	14箇所 48%	5箇所 17%	4箇所 14%	2箇所 7%	0箇所 0%	4箇所 14%

Q43. スタッフが保有する資格の有無

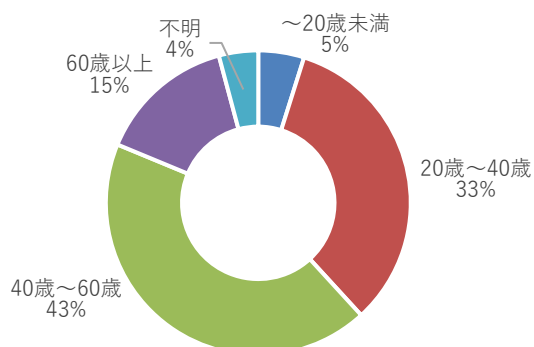
施設数	教員免許	福祉に関する資格	心理に関する資格	その他
	21箇所 72%	14箇所 48%	6箇所 20%	9箇所 31%

※72%の施設に、教員免許を取得したスタッフがいる

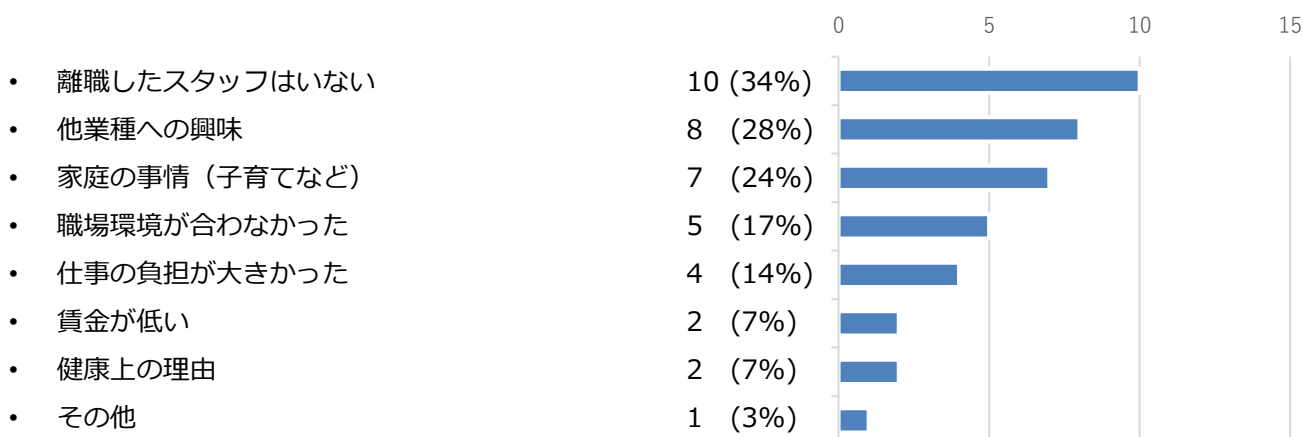


Q44. スタッフの年代を記入してください。

- ・ ~20歳未満 7人
- ・ 20歳以上~40歳未満 48人
- ・ 40歳以上~60歳未満 62人
- ・ 60歳以上 21人
- ・ 不明 6人



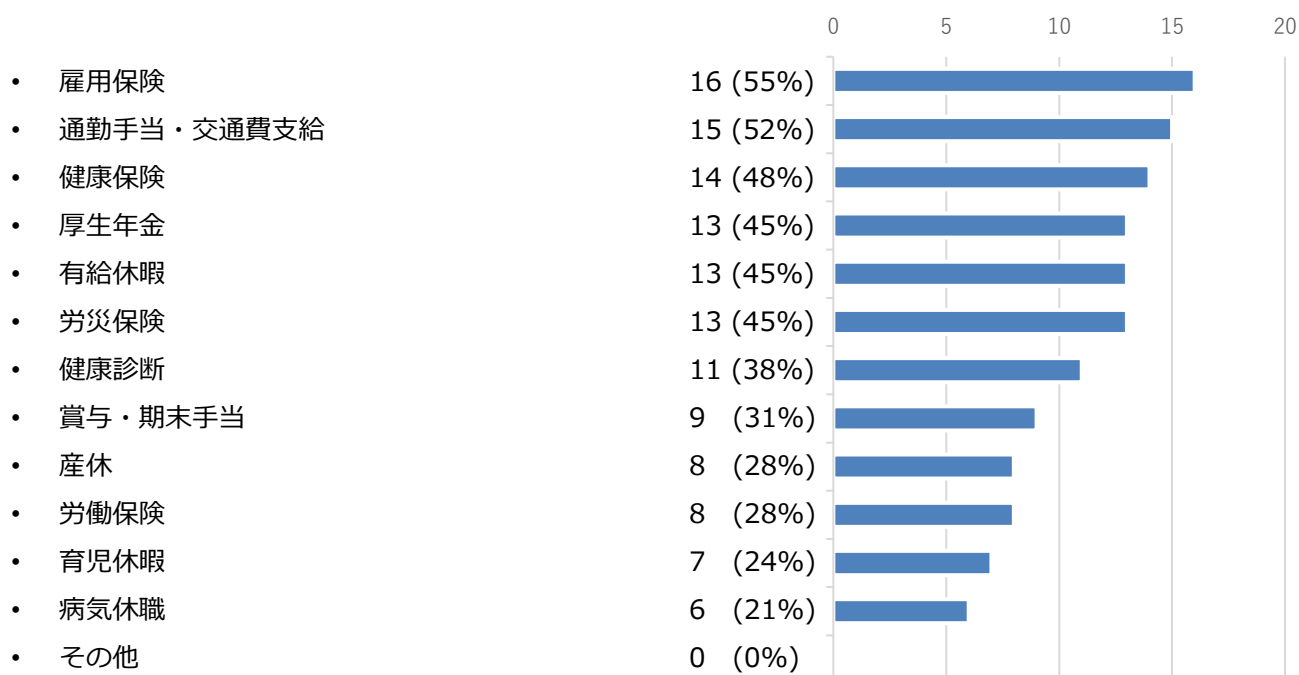
Q45. 過去に離職したスタッフの離職理由を教えてください。※複数回答可 N=29



【その他】

- ・ 無報酬のスタッフであったが、特性がある子どもたちへの対応ができずに、こちらからお断りをした。子どもたちからの苦情だけではなく、他スタッフからの苦情もあったため。

Q46. 有給スタッフについて、次のような待遇はありますか。※複数回答可 N=29



⑦ 利 用 料

Q47. 入会金（初期費用）の徴収について教えてください。※単一回答 N=29

- | | |
|---------|----|
| ・ している | 10 |
| ・ していない | 18 |
| ・ 未回答 | 1 |

Q48. 入会金（初期費用）の具体的な金額について教えてください。※自由記述

入会金5,000円～20万円

Q49. 利用料（授業料）の徴収について教えてください。 N=29

- | | |
|-------------------|----|
| ・ 会費（授業料）を徴収している | 26 |
| ・ 会費（授業料）を徴収していない | 3 |

Q50. 利用料（授業料）の具体的な金額について教えてください。※自由記述 N=26

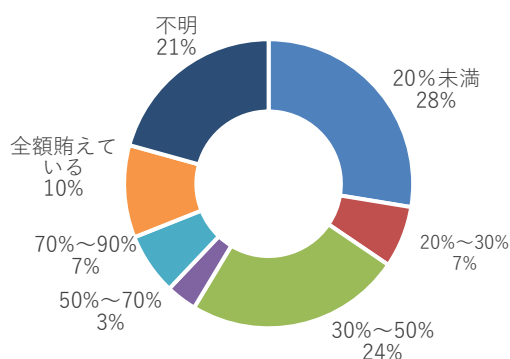
1回300円～月額58,000円まで様々

Q51. 利用料（授業料）の減免制度はありますか？※単一回答 N=29

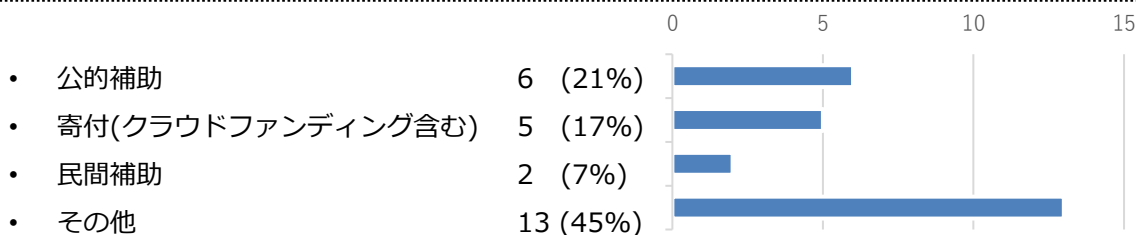
- | | | |
|------|----|--|
| ・ あり | 5 | 【具体的な減免制度を記入してください】
・ 自己申告。経済的に厳しければいいですよとお伝え。
・ 54,000円の設備費免除
・ 複数講座の受講割引、兄弟割引 |
| ・ なし | 23 | |
| ・ 不明 | 1 | |

Q52. 全体運営費のうち、入会金、利用料、その他の納付金等の月額収入でどの程度賄えていますか？
※単一回答 N=29

- | | |
|-------------|---|
| ・ 20%未満 | 8 |
| ・ 20%～30%ほど | 2 |
| ・ 30%～50%ほど | 7 |
| ・ 50%～70%ほど | 1 |
| ・ 70%～90%ほど | 2 |
| ・ 全額賄えている | 3 |
| ・ 不明 | 6 |



Q53. 入会金、利用料（授業料）の月額、及びその他の収入により「全額賄える」以外を回答した団体・施設について、その他の収入をどのように得ていますか？※複数回答可 N=26



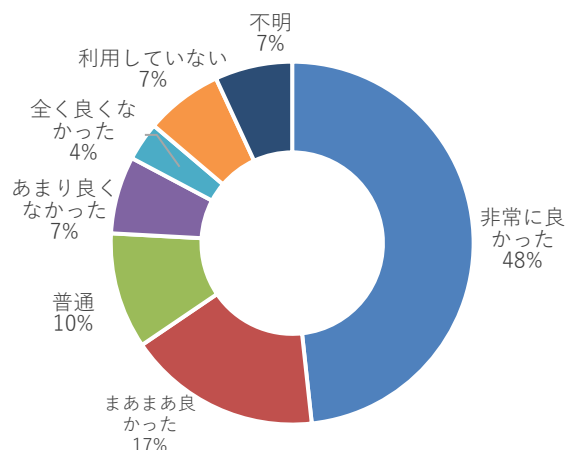
【その他】

- ・ 会員（団体応援メンバー）会費、企業協賛金、イベント収益。他事業の収入で補填
- ・ 通信制高校の事業収入により補う（法人で運営する他の事業の中で賄っている）
- ・ 自分（経営者）の貯蓄
- ・ 他でアルバイトをしている

Q54. 昨年度より開始した利用料への半額補助制度について、どのように感じていますか？

※単一回答（補助制度＝月1万5000円を上限に利用料の半額を補助する事業） **N=29**

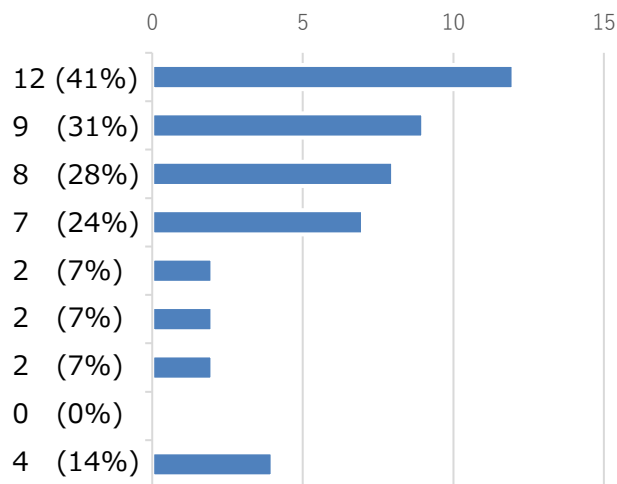
- ・ 非常に良かった 14
- ・ まあまあ良かった 5
- ・ 普通 3
- ・ あまり良くなかった 2
- ・ 全く良くなかった 1
- ・ 利用していない 2
- ・ 不明 2



Q55. 利用料への半額補助制度の影響によって、どのような変化を感じますか？※複数回答可

N=29

- ・ スタッフの事務負担が増えた
- ・ 保護者の満足度が上がった
- ・ 学校との会話が増えた
- ・ 変化はない
- ・ 利用者が増加した
- ・ お問い合わせが増加した
- ・ フリースクール等の理解度が上がった
- ・ 利用者の多様性が増した
- ・ その他



【その他】

- ・ 半額免除があったとしても、利用料が高いと言われ困惑している。公立の学校は無料なのに、そこに通えないからといってフリースクールに通うと、お金がかかるのはおかしいという保護者の意見を、こちらにぶつけられる
- ・ 案内しやすくなった
- ・ 実感として変化を感じない

⑧ 学校等との連携状況

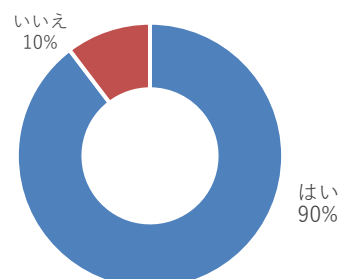
Q56. 学校との連携は必要ですか？※単一回答

N=29

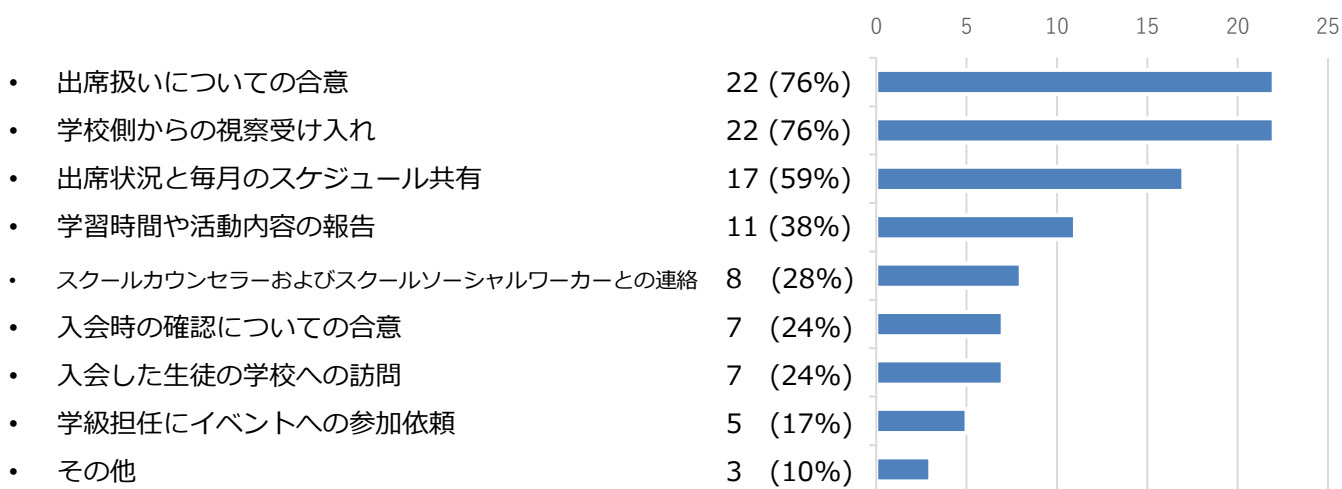
- ・ はい 26
- ・ いいえ（必要ではない理由をご記入ください） 3

【必要ではない理由】

- ・ 独自の理念で運営しているため。
- ・ そこまで必要に感じない。親も学校との連携をのぞんでいない



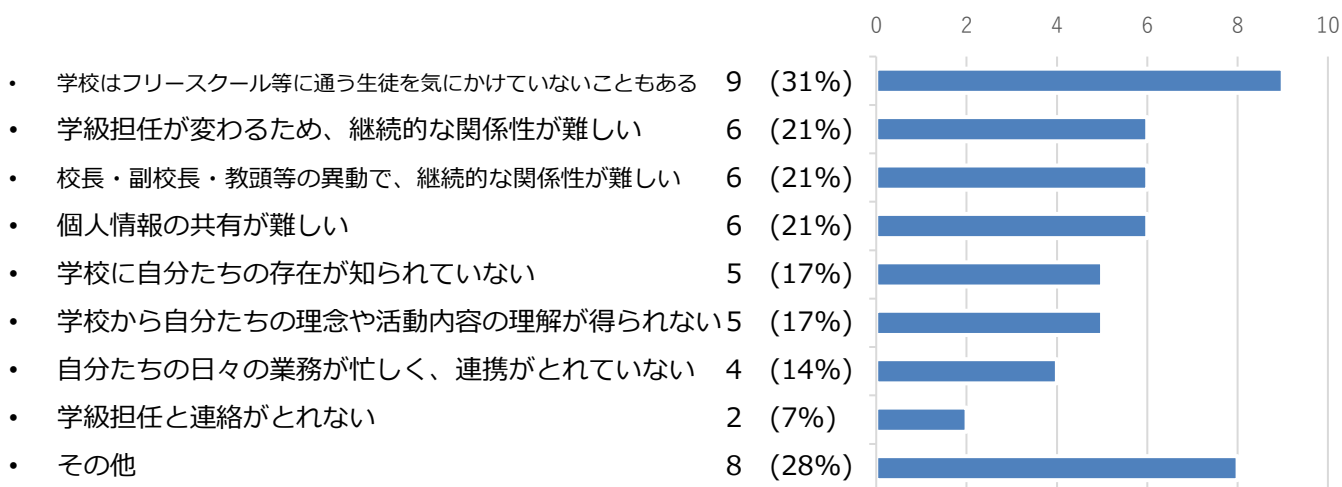
Q57. 学校との連携・協力関係を保つために行っていることはありますか？※複数回答可 N=29



【その他】

- 毎月1回、その児童生徒の成長や伸びを記録した「学びの記録」(A4 1枚)を作成印刷し、当該在籍校に足を運んで、管理職または担任の先生に手渡ししている。
- 現在はスクールカウンセラーとは連絡は取っていない。必要と感じているが、連絡のとり方・かわり方がよくわからない。

Q58. 学校との連携上での課題はありますか？※複数回答可 N=29



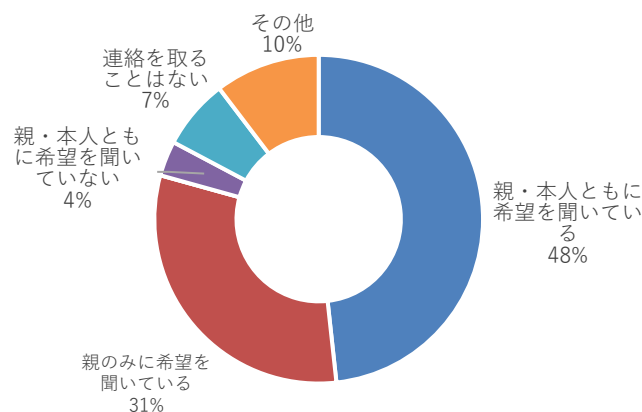
【その他】

- 連携の具体的内容について相互理解が難しい。
- 先生方が忙しく、学校に来ている子対応で精一杯という印象がある。それゆえ、フリースクール利用児童・生徒に対しての日常的な情報交換が難しい。
- 学校を信頼して出している情報を、学校側の無理解と不手際で保護者側に当たってしまったことがあり、信頼関係を作るのが難しいと感じる。その学校さんにはもう個人情報を出すことができない。
- 居場所やフリースクールが、なぜ必要なのかについて、まだまだ学校関係者の中に理解が乏しい。事前連絡なく、こどものいる時間帯に訪問されることは、こどもが不安になるので控えてほしい。
- 特に無い。
- 学校に来ていない生徒には興味のない先生が多く感じる。
- こちらから尋ねないと「困っていること」を表に出さない。
- 学校担任とは連絡をとっていない。フリースクール担当者とのみ出席確認について連絡している。

Q59. 学校と情報共有する際に、親や本人の希望を聞いていますか。※単一回答 N=29

- ・ 親・本人ともに希望を聞いている
- ・ 親のみに希望を聞いている
- ・ 本人のみに希望を聞いている
- ・ 親・本人ともに希望を聞いていない
- ・ 連絡を取ることはない
- ・ その他

14
9
0
1
2
3



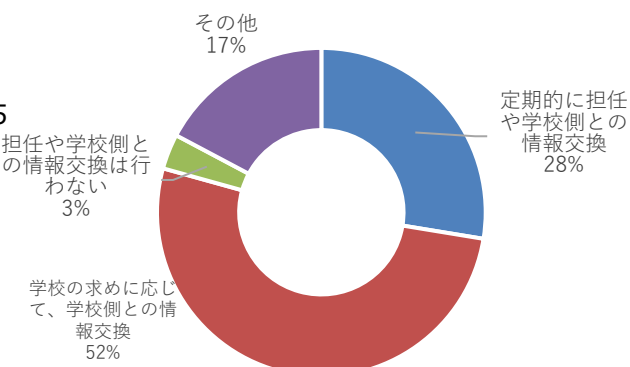
【その他】

- ・ 親のみに希望を聞いている。本人に確認するときもある。
- ・ 入学時に定期的に出席状況と活動の報告を在籍校に行う旨を伝えています。

Q60. 担任や学校側との情報交換はどのような形をとっていますか。※単一回答 N=29

- ・ 原則として、定期的に学校側との情報交換を行っている
- ・ 学校の求めに応じて、学校側との情報交換を行っている
- ・ 担任や学校側との情報交換は行わない
- ・ その他

8
15
1
5



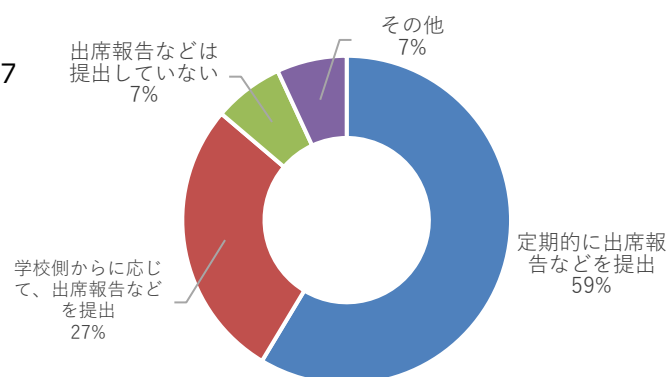
【その他】

- ・ 学校からの求めに応じて、担任や学校側との情報交換を行っている。
- ・ 出席扱いの場合、月1回出席状況と活動の様子を記した報告書を学校に送っている（本人、保護者の了解を得て）。
- ・ 教頭先生とメールでやりとり。
- ・ 月に1度、活動内容等の報告書を郵送する。
- ・ こちらが必要を感じた場合に個別に学校へ伺い、情報共有を行っている。

Q61. 学校に対して、出席報告はどのような形をとっていますか？※単一回答 N=29

- ・ 原則として、定期的に出席報告などを提出している
- ・ 学校側からの求めに応じ、出席報告などを提出
- ・ 出席報告などは提出していない
- ・ その他

17
8
2
2



Q62. 学校以外と連携していますか？（行政、地域の企業など）※単一回答 N=27

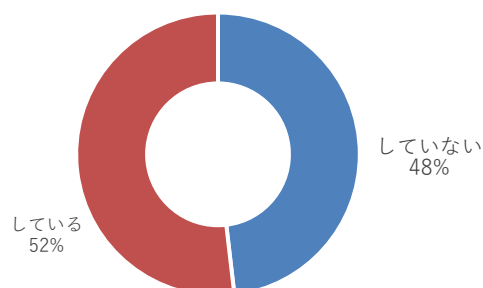
- していない 13
- している 14

（※未回答 2）

（具体的な連携先、連携の目的・内容を記入ください）

【具体的な連携先、連携の目的・内容】

- 教育委員会、教育事務所、医療機関
- 高岡市 県内フリースクール団体 ドクター
- 保護者側から希望があった場合、行政や児相と連絡を取っている
- 行政機関、民間支援団体、必要に応じて
- 精神科医療機関、他の民間支援機関、児童相談所
- 他フリースクールとのコラボイベントや情報共有
- 福祉サービスなど
- 地域医療、個人、団体、事業者
- 商工会、中小企業家同友会、企業、ひきこもりセンターサポートステーション
- 社会体験のため、地元の個人事業主に協力してもらい仕事体験などをさせてもらっている
- 教育センター
- 合同イベントの実施・・・スポーツクラブ、社会福祉協議会、屋内プール施設
- 市のこども支援課、児童相談所



⑨ 不登校児童生徒が利用するにあたっての課題等

Q63. 児童生徒が利用するにあたっての課題の重要度を教えてください。

※相対的に重要だと思うものを、上から5つ選んで、順位を数字で記入

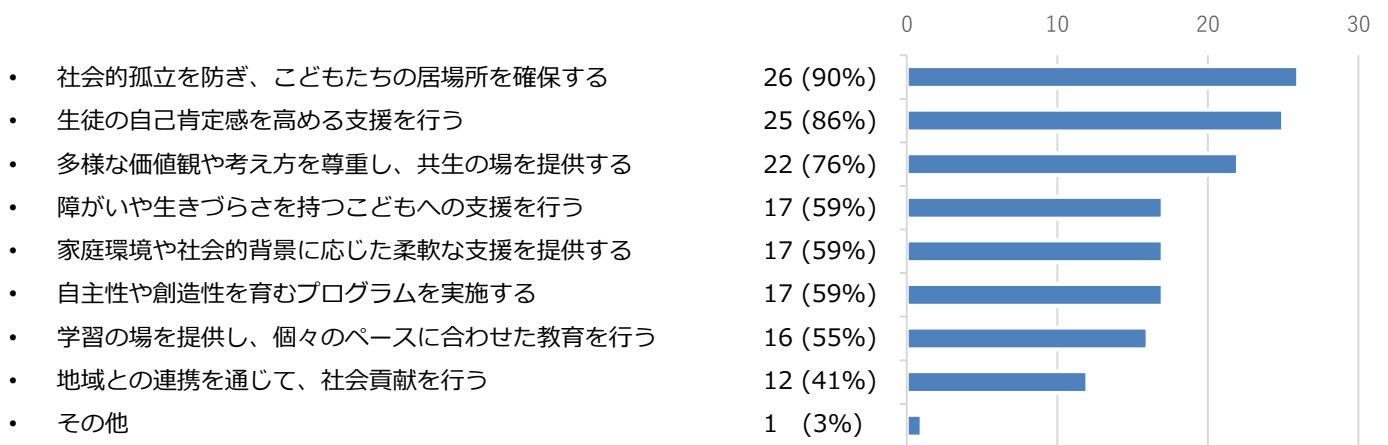
項 目	運営資金	理解度・認知度	フリースクール等への	在籍している学校との連携	スタッフのマンパワー不足	金銭的負担	入会金や会費等の	情報発信・周知力	保護者との連携	スタッフのスキル・ ノウハウ	行政への申請書提出の負担	こども同士の関係	施設へのアクセスの悪さ	こどもとスタッフの関係	施設内の活動内容	活動拠点の数	その他
ポイント	51	17	15	14	14	13	8	8	8	8	6	6	5	2	6		
順位	1	2	3	4	4	5	6	6	6	6	7	7	8	9	7		

※各事業者が選んだ1位＝3ポイント、2～5位＝1ポイントとして整理

【その他】

- 保護者の啓発
- 地域との関わり

Q64. 施設・団体の存在意義を教えてください。※複数回答可 N=29



【その他】

- 生活力、学力、思いやりの心（人間力）を高め、社会参加と社会的自立を果たし、社会に貢献できる青少年の育成

Q65. 施設・団体を運営するやりがいを教えてください。※自由記述

- ・ 子どもたちや若者たちが、日々元気になっていく姿を見られることはとても嬉しい。
- ・ 子どもたちの笑顔が見られること。変化、成長がたくさん感じられること。
- ・ 学校に行かなくても、フリースクールで過ごすことで、元気に過ごししながら、自分のタイミングで、学校へいってみたい、新しいことにチャレンジしたりする姿に出会えたとき。
- ・ 学校以外の場所でも、自分の能力を発揮したり、能力を上げられたり、新しい自分の興味・関心に気づけたりする瞬間に立ち会えると、やっていてよかったと感じます。同時に、親御さんが楽になったり、安心したりする顔を見ると、こちらもやっていて良かったと感じます。
- ・ 子どもも保護者も少しでも明るい表情になってくれることは嬉しいことです。
- ・ 不登校となり、将来に絶望し、自死まで考えていた子が、元気に回復し、巣立ってゆくこと。
- ・ 子ども達のびっくりするような成長を目にし、感じるができる。
- ・ 様々な子どもや保護者と関わるなかで、人として生きること、その上で大切なことについて考えられること。教員として勤務していた時より、考え方や視点の幅が広がった。
- ・ 子どもたちが可能性を広げていくことは、地域の発展、幸せにつながっていきます。一人でも多くの子ども達が、未来に希望を抱いて成長できる場を作ること、やりがいしか感じられません。
- ・ 一人一人の居場所が見つかる。
- ・ 学校に戻る生徒が何人かいたこと。
- ・ 暗かった子が就職する。
- ・ 利用している子ども達が生き生きと活動し成長していく姿をみていると大変やりがいを感じます。
- ・ 子どもたちの学びの特性や学びの可能性が広がっていくことを感じられること。
- ・ 利用する子どもたちの安らぎの場や楽しみの場を提供し、来たいと思ってもらえること。
- ・ こどもの居場所づくり。
- ・ 子ども支援は未来の地域、社会をつくる土台であると考えています。

Q66. 貴施設について、保護者からのご意見や要望があれば教えてください。※自由記述

- ・不登校や行き渋りがあったのに、安心して自ら楽しんで通うようになった。
- ・企画力・考える力がついた。失敗を恐れなくなった。好きなことだけをやるのではなく挑戦する意欲がみられるようになった。自信がついた。
- ・今までは親まかせだったことなど、様々なことを自分事としてとらえるようになった。
社会性・思いやりが育まれた。
- ・利用料が高い。もう少し安くしてほしい（少数）。
- ・活動費の足しになれば…と保護者でバザーに取り組んでいる。
- ・学習面の不安（もう少し勉強させてほしい）。
- ・公立の学校は無料であるが、様々な理由でいけなくなったからといって、学習の場や学びの場が有料で保証されるのはおかしいという意見があります。
- ・楽しそうに仕事をする大人に出会える機会があることが良い。
- ・どこかと繋がれたら、相談できたり楽になった。
- ・早く繋がれるように、フリースクール、親の会、SSW、SSC…情報をわかりやすいところに。
- ・勉強したいと思った時、周りより遅れている為、学校では参加しにくい。親だけでは負担が大きい。
- ・理解のない先生、専門職もいて、こどもも親も傷付く。
- ・小学校から中学校へ行くと、支援がとぎれる。小学校から中学校へ、個人の状況を伝達してほしい。
- ・学校の対応がいまいち。
- ・不登校の理由に、いじめもある。被害者への対応すぐできる体制にしてほしい。
- ・こどもの声もちゃんと聞いてほしい。
- ・支援する人に、教員だけでなく色々な立場の人を入れてほしい。
- ・予約なし、行きたい時間に行けて帰りたい時間に帰れる、気軽に通える場所が欲しい。
- ・ゲームのある居場所が増えてきている（ゲームがなくても居場所に通える子もいる）
- ・いろんな特色ある居場所があり、選べるといい。
- ・「やってみたい」や「好き」が見つかる活動ができる場所が欲しい。
- ・居場所、学校を作っていく中で、ワークショップなどを通して、こどもの意見を取り入れてほしい。

Q67.利用者（児童生徒）からのご意見や要望があれば教えてください。※自由記述

- ・自分で計画を立てられるのが魅力。
- ・宿題がないことが嬉しい。給食がおいしい。自分の好きなことを堂々と言える。
- ・本性を表せる。自分らしく過ごせる。自分でルールを決められる。
- ・学年の隔たりがないため、みんなと仲良くなれる。
- ・とりあえず挑戦してみようと失敗を恐れなくなった。
- ・もっと生徒をふやしてほしい。毎日行きたい。
- ・やりたいことをさせてくれるのは嬉しい。
- ・自分のことを認めてくれるスタッフがいて安心できる。
- ・外に出かけたい。
- ・スイッチ2がほしい。プレイステーション5がほしい。
- ・古民家は雰囲気はよいが、害虫の被害が多く、もっときれいな施設へ移動したい。

Q68.今後の改善点や要望があれば教えてください。 ※自由記述

- ・学校と双方向の情報交換が定期的にできるとうれしいです。アプリやメールなどでも良いので学校の様子（授業の進捗状況や行事など）を知ることができれば助かります。
- ・施設への補助（家賃など）があると運営しやすいと思う。
- ・学習を希望するこどもへの対応を工夫したい。
- ・赤字を小さくしたい、国・自治体からの補助があると嬉しい。
- ・現在、運営は赤字なので、行政の支援拡充、補助金の活用等を積極的に働きかけていくとともに、自主財源の確保を目指してゆく。
- ・人件費を気にして少ない数のスタッフでこどもたちを見守ったり、お金がかからない活動を設定したりと資金不足による工夫の必要が責任者の負担になっている。
- ・人件費の経済的支援をお願いします。また、こどもたちの興味、関心に沿った教材を買うための教材費もあると助かります。
- ・不登校になるお子さんには、経済的にフリースクールの利用料を出せず、利用を諦める方もいらっしゃる。また、こどもが行きたいのに、お金がないからダメだと制限をかけ、こどもが切ない思いをしているご家庭もあります。
- ・スタッフを補充したい。資金を潤沢にし、スタッフの給与をあげたい。対外PRを増やしたい。施設にも補助があると、活動の幅の拡大や受け入れの増加も考えられる。
学校との連携に抵抗感をなくしていただけると良い。先生方も忙しいゆえの、余裕のなさだとは思いますが。せつかくのなので、一緒にこどもたちの成長のために仲間として関わりたい。
- ・公共施設職員（図書館や、児童館）も不登校への理解を広めてほしい。そのための研修など。
- ・フリースクール同士での連携もできる場があるとよい。
- ・バランスの良い関係づくり
- ・不登校や行き渋り児童の件数について、どこの機関にその児童が繋がっているかのデータを、関連諸機関のネットワークで共有して、支援のとりこぼしがないようにして欲しい。
- ・本年度6月から放課後等デイサービスを開始しました。放課後等デイサービスにおいても令和6年度から不登校の児童生徒の支援が位置づけられたからです。今まで利用していた方のうち7人は、放課後等デイサービスをして現在利用を継続しています。
- ・公教育と同じ無料で利用できる体制をとらないと、現在不登校になっているこどもたちを支援することは難しいかと感じられます。
- ・今年度、高校生になった方も、最近、不登校の日が増えてきており、高校生への補助も検討していただけるとありがたいです。